

12月27日（第4号）

令和 4 年豊能町議会12月定例会議会議録目次

令和 4 年12月27日（第 4 号）

| | |
|-------------------------------|----|
| 出 席 議 員 | 1 |
| 議 事 日 程 | 2 |
| 開 議 の 宣 告 | 3 |
| (一 般 質 問) | |
| 吉 田 正 子 | 3 |
| 寺 脇 直 子 | 13 |
| 秋 元 美智子 | 22 |
| 才 脇 明 美 | 34 |
| 永 並 啓 | 44 |
| (議案提案説明・質疑・討論・採決) | |
| 第 5 号議会議案 豊能町議会特別委員会設置の件..... | 56 |
| 町 長 あ い さ つ | 58 |
| 散 会 の 宣 告 | 58 |

令和4年豊能町議会12月定例会議会議録（第4号）

年 月 日 令和4年12月27日（火）

場 所 豊 能 町 役 場 議 場

出席議員 12名

| | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 1 番 | 池田 忠史 | 2 番 | 才脇 明美 |
| 3 番 | 吉田 正子 | 4 番 | 中川 敦司 |
| 5 番 | 寺脇 直子 | 6 番 | 管野英美子 |
| 7 番 | 永谷 幸弘 | 8 番 | 永並 啓 |
| 9 番 | 小寺 正人 | 10番 | 秋元美智子 |
| 11番 | 高尾 靖子 | 12番 | 川上 勲 |

欠席議員 なし

本会議に説明のため出席した者は、次のとおりである。

| | | | |
|----------|-------|---------|-------|
| 町 長 | 塩川 恒敏 | 副 町 長 | 川村 哲也 |
| 教 育 長 | 森田 雅彦 | 総 務 部 長 | 仙波英太郎 |
| まちづくり調整監 | 松本真由美 | 保健福祉部長 | 小森 進 |
| 住 民 部 長 | 大西 隆樹 | 都市建設部長 | 坂田 朗夫 |
| こども未来部長 | 入江 太志 | | |

本会議に職務のため出席した者は、次のとおりである。

| | | | |
|--------|-------|-----|-------|
| 議会事務局長 | 浜本 正義 | 書 記 | 清水 義和 |
| 書 記 | 田中 尚子 | | |

議 事 日 程

令和 4 年12月27日（火）午前 9 時30分開議

日程第 1 一般質問

日程第 2 第 5 号議会議案 豊能町議会特別委員会設置の件

開議 午前9時30分

○議長（管野英美子君）

皆様、おはようございます。

ただいまの出席議員は12名であります。

定足数に達しておりますので、これより
本日の会議を開きます。

大西住民部長。

○住民部長（大西隆樹君）

おはようございます。

昨日の小寺議員の一般質問のダイオキシン問題の答弁の中で、私のほうから自治会や地域の方とお話をさせていただいて、今後協議をしていく話ができているというふうに申し上げましたが、協議ではなく、継続して意見交換をさせていただくことをお願いしているの誤りでございました。おわびし、訂正させていただきます。

○議長（管野英美子君）

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりでございます。

日程第1「一般質問」を行います。

昨日に引き続き、順次発言を許します。

質問者は、質問者席に登壇して質問を行ってください。

持ち時間は、質問及び答弁を合わせて50分といたします。

吉田正子議員を指名いたします。

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

議長より御指名がありましたので、一般質問させていただきます。皆様、おはようございます。

それでは、12月、一般質問、3番・吉田正子です。

まず最初に、デジタル化全般についてお伺いいたします。

スマートシティの進捗状況について、日本政府のデジタル庁は全ての国民にデジタ

ルの取組を進めてきました。そこでお伺いします。本町では、これまでにスマートシティとしてデジタル化に取り組んでこられたが、その成果と達成度をお伺いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

おはようございます。

本町でのスマートシティに向けた取組は、将来にわたり人口減少などの課題がある中、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力の向上の実現を図ることを目指して、現在実施しているところでございます。具体的な取組内容につきましては、スマシサービスが集約したアプリ「とよのんコンシェルジュ」の開発、必要な行政サービスが分かるサイト「手続ナビ」の構築、見守りカメラの設置、防災・緊急情報がテレビに届くテレビプッシュの設置、日々の健康状態を管理するスマートバンドの配布、おてつたびの受入れ、デジタルデバйдの解消のためにスマホ教室を開催、よろず相談の開設などを実施しておりまして、サービスの実証と機運の醸成を図ってまいりました。今年度につきましては、コンパクトスマートシティ事業が内閣府のデジタル田園都市国家構想推進交付金が採択され、財源が確保されたことから、具体的な取組内容につきましてはインフラ整備や地域経済といった分科会ごとに原課と関係企業との打合せを重ねまして、サービスが実装できるように進めているところでございます。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

昨日も質問にありましたように、光風台中央公園をデジタル化することによって維持管理費用についてお尋ねします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

おはようございます。

昨日の光風台中央公園の中での維持管理の関係の御質問ということなんですけども、現在、11月5日に行われました東ときわ台の中央公園での実証イベントとか、今後これから来月行おうとしている1月22日のこれから落とした光風台中央公園でのイベント等を考えておるんですが、その中でも近隣公園、1万平米、1ヘクタール以上を超えておりますので近隣公園レベルとなっております、そういった公園の管理手法とかも含めまして、今後課題とか維持管理をどうやって効率化していきたいとか、そういったものを現在検討しておりますので、もうしばらくちょっと時間かかるかと考えております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

昨日もありましたように、皆さん聞いてました桜を切られたことに対していろいろ尋ねて、住民の方が尋ねられていました。そして桜の木を伐採されたのは樹木匠によつての判断によるというお答えがありました。そして切られた木についての利用はどうされたのでしょうか。

○議長（管野英美子君）

すみません、どの項目でしょうか、通告の。

○3番（吉田正子君）

デジタル公園の維持管理及びそれから、ついでに関連で木を伐採されたことによつて、消去されてしまったのか、それを利用することに、また何かに利用されているのか、そういうことも住民の皆様からのお尋

ねがありましたので関連でお願いしたいと思います。

○議長（管野英美子君）

関連で答えられますか。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

お答えいたします。

光風台中央公園の、今、整備を行っているところの中の樹木等については、一部なんですけど、4か所ぐらいだったと思いますけどもベンチに新たに設置し直しまして、現在、向井製材所さんのほうで加工していただいて、今、乾燥しているところなんですけども、もうしばらくすればベンチとしてまた復活するというので、あと残りについてはもう処分という形で考えております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

それでは次の質問にいかせていただきます。

将来、本町はどのような町を目指して、どのような発展をしなければならないか、さらなるビジョンをお伺いいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

本町でのスマートシティに向けた取組は、将来にわたりの人口減少などの課題がある中、デジタルを活用した地域課題の解決や魅力の向上の実現を目指しております。スマートシティの実現には、公民連携の取組に加えまして住民の理解や文化の醸成を図りながら中長期的に取組を進めていく必要があると考えておりまして、今後も住民の皆様と合意形成を図りながら、デジタルを町の中に取り入れた生活の質の向上を図っ

てまいりたいと、このように考えております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

社会全体のデジタル化が進む中、使いこなせる方とそうでない方のデジタル格差の解決が重要であります。誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化は、冒頭で言った国の方針でもあります。高齢者に対するデジタル知識格差の把握と、その対応の取組をお伺いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

スマートシティに向けた取組を推進するに当たりまして、誰一人取り残さないという観点から、高齢者の情報格差の解消については特に重要であることは認識しております。また自治体デジタルDX推進計画におきましても、取り組むべき事項に情報格差の対策についてが記載されております。これまでの取組としましては、スマホになれていただくためにスマホ教室を実施いたしました。また、現在の取組としましてはスマホ体験会、よろず相談所の開設を実施しておりまして、デジタルを身近に感じてもらうことによって住民の利便性を目指しております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

より一層の支援をお願いします。

それでは次の質問にいかせていただきます。

デジタルを支援する人の教育と人材確保はできているのでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

先ほども御説明させていただきましたとおり、情報格差の対策、取組は非常にこれからも必要であるということは認識しております。その取組の始めとしましてスマホ教室からスタートさせていただいたわけですが、現在はスマート教室を体験した方で、人を教えることもできるよというような声も上がってきました。この取組でみんなで教え合う、またリーダー的な存在の方が先生になるということを目指に取り組んでいけるのではないかとというようなことが分かってまいりましたので、今後この取組がデジタル人材の育成と新しいコミュニティの両立につながっていることを期待してよろず相談所を進めてまいりたい、スマホサロンのほうを進めてまいりたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

分かりました。より一層の人材確保の支援をよろしくお願いいたします。

停電や災害時のシステム障害が生じたとき、本町では深刻な混乱におちいらないかお尋ねします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

私からは、スマートシティサービスにおいて停電等システム障害が生じた場合のことに關しまして回答させていただきます。スマートシティサービスを提供するに当たりまして、停電や災害などによってシステムが利用不可能になる、またはデータが消失する事態に至れば、サービス継続の大き

な障壁になるということは認識しております。こうした災害リスクを回避する対策としてクラウドサービスを活用したシステムを構築することとしておりまして、庁内のサーバールームでの運用をすることも、はるかに安全システムを運用することが可能となり、かつコスト削減にもつながると考えております。また利用者にとってもインターネットにつながる環境であればアクセス可能であり、スマートフォンの端末から情報を入手することができるメリットもあるため、引き続き災害対策を講じながらサービス提供を検討してまいりたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

近年、想定外のことが起こるので対策強化を要望しておきます。

それでは次の一般質問、教育全般についてお伺いします。

本町での教育方針を、小中学校の生徒の保護者は、我が子の育成を考えると知っておく必要があります。本町での教育理念と教育方針をお伺いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

森田教育長。

○教育長（森田雅彦君）

おはようございます。

吉田議員さんお尋ねの教育全般についての御質問のうち、本町での教育理念と教育方針について教育長森田より御答弁申し上げます。

まず教育理念ですが、本町が掲げております教育理念は未来を拓く教育を目指すことです。子どもたちには変化の激しい社会を生き抜くための力を育成することが求められております。これからの社会が予測困

難な状況にあっても自ら課題を見つけて自ら学び、そして自ら考え判断して行動し、それぞれが目指す道を切り開いていってくれることを目指してまいりたい、そんなふうに考えております。

次に、本町でどのような教育を進めるかにつきましては、平成26年、27年度に、学識、保育所・幼稚園・小中学校の教職員、保護者や教職員代表、教育委員会事務局職員からなる豊能町小中一貫教育等充実検討委員会が立ち上げられ、様々な角度から検討をされたところでございます。そして他の地域ではあまり見られないゼロ歳から15歳をつなぐ保幼小中一貫教育を進めること、目指す子ども像として、豊能町に誇りを持ち自信を持って社会を生き抜く子どもを掲げ、地域、保護者、教職員、行政みんなで責任を持って、一貫性、継続性、発展性を大切にした教育を目指すことといたしました。なお、子どもたち15年間の育ちや学び、縦のつながり、これを大切にした保幼小中一貫教育、これを縦軸に、これを支え進めるために、学校、家庭、地域、横のつながりを基盤とした地域とともにある学校を横軸にすることを柱とした豊能町保幼小中一貫教育グランドデザイン、これを令和2年3月の教育委員会議で策定をしたところでございます。これに基づきましていろいろな取組が、今、進んでおるところでございます。なお、保幼小中一貫教育の推進など詳細につきましては議員の皆様にお配りをしております豊能町教育基本指針、ここに詳細をお示しをしておりますのでまた御覧いただけたらと思います。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

私なりの個人的な教育理念は重なることもあると思いますが、その子どもの才能を

高め、社会に役立ち、どんな環境でも生きていける精神と知恵を身につけることと思っています。

では次の質問にいかせていただきます。

さらなる英語教育アップの充実に向けて。日本全国では近年、英語教育が大幅に変わっております。生まれたときからインターネットに触れることができる子どもにとって世界は身近な存在です。自信を持って社会、世界に飛び立つには外国語教育は非常に重要であり、それを教える教員の能力向上もとても重要です。現在、全国自治体の教育方針ではA L Tいわゆる会話堪能な外国語指導助手の導入が活発に増えております。A L Tにおいて本町の見解をお伺いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

おはようございます。お答えいたします。

先ほども教育長言いました、豊能町では豊能町教育基本指針を令和4年度も策定しております。その中で重点項目を上げておりますが、その指針の18ページに記載あるんですが、先ほど吉田議員が言われた外国語教育の充実というのも重点の項目で上げております。その中で先ほど示した互いの考えや気持ちなどを、外国語いわゆる英語で即興的に伝え合う対話的な言語活動を行い主体的にコミュニケーションを図ることができる力を養うということも重点の項目の取組内容の一つに掲げているところです。先ほど申しましたA L T、外国人指導助手につきましては、大変、そういう重点項目の取組をする上で非常に役立つものと考えております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

分かりました。それでは次、将来、A L Tの採用及び、増やす取組はどうなっているのでしょうか。お尋ねします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

現在、本町では両中学校にA L Tを1名、合計2名雇用しております。あと小学校に1名、現在配置している状況でございます。これにつきましては非常に、英語活動を行う上では非常に重要と考えておりますので、現在3名の配置でございますが教育委員会としては充実はしていきたいと思いますが、一定、A L Tの雇用にも多額の経費がかかります。そういうこともございまして、今後予算の要求の中でまた増員ができればそれぞれ充実はしていけるんですけど、予算の協議の中でそういうことも協議をしていきたいと思っております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

先ほど3名と聞きましたので、これからも幼稚園、小学校、中学校もありますので充実した支援をよろしくお願いします。これは要望でございます。

次に、英語検定に対する保護者への働きかけと支援の取組をお伺いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

英語検定に対する保護者への働きかけと支援の取組でございますが、英語検定を本町内の学校で受けられるよう保護者等にチ

ラシを配布しております。これは学校を通じて配布しているところです。また受験料の補助につきましても、どの英語検定の級でも一律2,000円の個人負担で受験ができるようにしているところでございます。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

豊能町は財政が枯渇しておりますけれども、これからもその支援が続くことを要望しておきます。

それでは、昨年の英語検定受験者数と合格率をお願いいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

昨年は英語検定の補助というのは実施しておりませんでした。なので令和4年度、今年度実施をしておりますのでその内容を説明いたします。受験者の合計は、これは中学生ですが114名受験されました。それで合格率ですが66名の方が、受けたそれぞれ級は違うんですけど66名の方が受けた級で合格をされている。合格率については57.9%ということになっております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

用意したグラフは文部科学省が発表した全国自治体の中学生3年までの担当する学力を表した内容です。大阪府は47%、全国平均は47%、政府の目標は50%です。この中で飛び抜けた成果を出している自治体があります。86.3%のさいたま市です。さいたま市の英語教育の成果の秘密を調べれば、ALTを最大限有効に使い、ゲームと遊び感覚で授業をしているので生徒たちは全員

英語が大好きとのことです。その絵がこれでございます。しかし、だからといってさいたま市の教育指導を全てできるわけでもなく、学校には諸事情があることもわかっております。しかしもしこのユニークな教育方法が本町で実現できれば、教育熱心な親は我が子の将来のために期待を持って本町に転校してくれると思います。結果的には町の教育の高さが人口減少の対策にもなると考えられます。中学3年までの英検3級レベル相当の英語力が身につけば、その生徒にとっては会話もできる英語力が人生の宝になります。今後さらなるALTの導入を積極的に要望したいと思います。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

森田教育長。

○教育長（森田雅彦君）

今、吉田議員さんのほうからいろいろな提案というんですか、御意見をいただきました。ALTをさいたまのほうでは動員をしてその成果を上げているということでございます。本町におきましてもALT、大変、小中学校であるいは幼稚園、保育所でも夏季休業中などは巡回してくれてまして、その力量を発揮してくれておるところでございますが、本町で目指している英語教育、これはグローバル人材の育成の一環として先ほど申しましたこの指針の中にも述べておりますが、幼稚園、保育所段階から段階的に英語になれ親しめる、そういうまた体験的な活動を充実させて、聞くこと話すことを通してコミュニケーション、外国の方ととれる、そういうことを目指しております。英検もその一つの、それは検証の一環だというように捉えております。これは希望者に補助をして受けていただいております。ということでございますが、そのほかに本町では、これは保育所、幼稚園から子どもた

ち、英語になれ親しめるということで、昨年度から連携協定をしております桃山学院教育大学、この英語の先生あるいは准教授、これをお招きをして、去年から幼稚園、保育所でまずどのような活動をするかということを展開してまいりました。その様子は7月22日、公開保育を学期に1回ずつ、保育所、幼稚園、認定こども園で行っておりますので、7月22日に実施した様子、これにつきましては町のホームページ、教育長コラムのナンバー15、英語で勉強したよ、お勉強したよというようなタイトルで掲載しておりますので、また参考のために見ていただければというように思います。本当に子どもたちが楽しみながら、先生が最初はTwinkle Twinkle Little Starというところから入りまして、いろいろな動物あるいは昆虫、バタフライそれからローリーポーリー、ダンゴムシですね、そんなことを絵でも示していただきながら、子どもたちとっても楽しそうに英語活動に取り組んでくれておりました。小中学校の先生もたくさん参加をしてくれておりました。そういうことで次年度は幼稚園、保育所から学年進行で小学校の低学年に研究を進めていく、そういう取組でございます。ALTさんももちろん大事ですが、地域にはたくさん英語を話し英語を使える方がたくさんおられますので、そういう方にも小中学校にも入っていただいて、それで英語活動、グローバル人材の育成にこれからも取り組んでまいりたいというように思っております。いろいろな御意見ありがとうございました。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

教育長の御答弁ありがとうございました。
安心させていただきましたし、コロナ禍で

すので私たち議員もまた視察させていただければありがたいと思います。

それではデジタル教科書について伺います。

GIGAスクール構想によって生徒1人1台の端末環境が整備され、コロナ禍での教育現場にすっかり根付き、日々の学習に活用されている状況に私は驚かされます。多様なICT環境が整備された学校教育の効果的な活用の在り方や留意点について伺います。今までの紙学習環境にどのような効果をもたらすのか伺いたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

今までの紙の教科書と違いましてデジタル教科書は次のような効果をもたらすものと考えております。まずメリットとしましては、デジタル機能の活用による教育活動の一層の充実が挙げられると思います。具体的には図形の例えば拡大・縮小が容易にできたりとか、検索が容易、あるいは保存もできるというような効果が期待できるのかなと思います。あとデジタル教材との一体的な使用についても有効に利用できるのかなと思っております。例えば動画でありますとかアニメーションを見るとか、あるいは今、英語教育もありましたけど、ネイティブによる朗読がクリックすれば聞けるとか、ほかにもドリルワークも簡単に開いたり、入力ができるというようなことができますし、大型の投影装置にも容易に表示が、転送が可能というような連携も図れるものと思っております。また、特別な支援が必要な児童生徒の学びのことににつきましても充実できるのかなと思っております。音声の読み上げとかルビでありますとか、

文字の色とか背景色の変更等とか、そういうことにもいろいろ活用できるのかなということ、そのような効果が期待できるのかなと思っております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

わかりました。

紙の教科書とは異なるデジタル教科書の指導方法の違いをお尋ねいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

紙の教科書とは異なるデジタル教科書の指導方法の違いでございますが、基本的には今のデジタル教科書のイメージは、紙の教科書と同じものがデジタル化されたものでございます。そのことから基本的には指導方法に大きな違いはございません。ただ、デジタル教材との併用による学習指導や、支援を必要とする児童生徒への教科指導がしやすくなっておるということでございます。私も実際デジタル教科書を見せていただきました。教科書のレイアウトと同じです。ただ、そのクリックしたりしますと音声が出るとか図形が表示される、そのような機能はございますが、見栄えとしては同じようなものということで、基本的には紙と同様の取扱いということをお願いしております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

デジタル教科書によって採点などの効率化も考えられますけどもどうでしょうか。それ利用されているのでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

タブレットを利用した例えばドリルでありますとか、そういう場合はもう採点は多分早くできるものと思っておりますが、このデジタル教科書を利用してそのような作業というのは聞いておりませんので、それはまた別の話かなと思っております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

わかりました。それでは次の質問にさせていただきます。

デジタル教科書の導入によるタブレットの不都合、故障などの想定される課題についてお尋ねいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

デジタル教科書のタブレット故障とかいうところも、日々使いますのでやはり何件か報告はございます。現在、ICT支援員の方あるいは、それは教科の指導をお願いしているんですが、故障も含めて対応していただいている状況でございます。1件修理も、場合によっては費用も高うございます。それで914台入れておりますので、これから多分老朽化等で修繕も多くなってくるかと思っておりますので、極力費用を抑えながら、あるいは学校の運営に支障がないように対応してまいりたいと思っております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

対応よろしく願いいたします。

それでは次の質問、長時間の利用による健康への影響の不安をお尋ねいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

健康への不安につきましては、スクリーンタイムといいまして、これは一部新聞でも報道があるんですけど、画面の見過ぎというんですか、そういうことで心身ともに変調がある場合があると聞いております。現在学校でも、例えば家庭でのタブレット学習とかスマホにつきましても見過ぎないように親と話し合いながらルールを決めて、一定時間過ぎれば休むというような形をお願いをしているところでございます。特に強制はしておりませんが、学校等でその辺のことを配慮しながら対応しているところでございます。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

これからも配慮をよろしく願いいたします。

それでは最後の一般質問、人口減少についてお伺いします。

全国で人口が減少している中、自治体体制での人口の奪い合いとなっております。地元で安心して子どもを産み育てることができる町にしなければいけないと思っておりますが、残念ながら本町の人口は減少傾向になっています。本町がこれまでに組みんできた対策と今後の対応をお尋ねいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

人口減少に歯止めをかけるために取り組むべきことは、転出超過の抑制と若い世代を中心とした転入の促進であることは認識しております。本町におきましては、平成28年3月に策定しました豊能町まち・ひと・しごと創生総合戦略のアクションプランに基づき、本町の魅力を高めながら移住定住につながる施策を展開してまいりました。子育て層への具体的な取組といたしましては、池田泉州銀行との公民連携により光風台出張所を活用した子育て広場を展開しております。地域コミュニティの活性化と子育て世代への魅力増進を図る施策として取り組んでおり、毎月現在約150組の親子が来場されているというところでございます。引き続き若い世代をターゲットにしました転入促進とは何か、それを検討しながら住民ニーズに寄り添った施策を進めてまいりたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

転入の促進を今、考えられているということなんですけども、転出が毎月ありますが、原因としているわけは。お伺いいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

若い世代におきましては多くの方が進学や就職などのライフステージの変化に伴い転出する傾向が本町にはあるのではないかと考えております。この世代の転出抑制やUターンを含めた転入促進を図るためには、暮らしやすさと多様な働き方ができる環境を整備する必要があると認識しております。引き続き若い世代に本町を住む場所として選んでいただけるような転入促進策とは何

か、それを検討しながら住民のニーズに寄り添った今後の施策を検討してまいりたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

それでは次の質問にさせていただきます。

本町で在住の若い人が、結婚と子育てが不可欠です。結婚・妊娠・出産・子育ての各段階における切れ目のない取組が必要であるが、そのための支援と環境づくりはできているのかお尋ねいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

小森保健福祉部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

おはようございます。お答えいたします。

現在、本町におきまして子育て世代包括支援センターはぐはぐを保健福祉センター内にて、また子育て支援センターすきっぷ、を吉川保育所内におきましてそれぞれ連携をして行いながら運営をしております。子育て世代包括センターはぐはぐにおきましては、母子保健や発達分野の相談支援として、妊娠届出時より妊婦や特にゼロ歳児、低年齢期の乳幼児を持つ子育て世代の相談支援体制を構築し、出産育児等に関する支援を行っているところでございます。また、妊娠期から関わることで乳幼児には保育所や幼稚園とも切れ目のない連携を通じ、きめ細やかな支援体制をとり、保護者の方の育児ストレスの解消や、時には教育委員会や小中学校とも情報共有を行い、虐待防止やゼロ歳から18歳までの子育て支援のための体制を構築しており、伴走的に相談支援を実施しているところでございます。子育て支援センターすきっぷにおきましても、地域の子育て支援の拠点といたしまして子育てに関わる全般的な相談、支援について、

一時預かり事業、育児の日の実施、ファミリーサポートセンターの運営等の業務を行っているところでございます。今後につきましてもお互いの施設の機能を十分に活かしまして、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談や支援を引き続き実施してまいります。

以上でございます。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

より一層の支援をしてください。それでは次、多子世帯の一層の配慮・支援ができているか、お伺いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

小森保健福祉部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

多子世帯やまた双子や三つ子などのいわゆる多胎児の世帯につきましても、先ほど申し上げました子育て世代包括センターはぐはぐや子育て支援センタースキップにおきまして総合的な相談支援を引き続き実施してまいります。

以上でございます。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○3番（吉田正子君）

私の提案させていただくことは、多子世帯だけではなくて赤ちゃんが生まれた場合オムツの無料化、そういうのは赤ちゃんが生まれるのは豊能町はワースト1ですので、それから魅力あるような町として紙おむつの無料化は、財政枯渇しておりますけれどもどうでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

小森保健福祉部長。

○保健福祉部長（小森 進君）

お答えいたします。

今般、国から令和４年度の第２次補正予算として示されてございます妊婦、子育て家庭への伴走型相談支援と経済的支援の一体的実施、これは出産子育て応援交付金ということで制度が示されてございます。昨日も第２回の自治体説明会が行われてございます。議員おっしゃるように、このスキームといいますのは、先ほど申し上げました伴走支援を行いながら、妊娠が分かれば５万円、出産されたら５万円というような事業スキームになってございます。今のところ現金になるかクーポンになるかということはこれから考えるところなんですけども、今おっしゃっていただいたような育児に必要なものについて、そのクーポンなり現金を充てていただくかなということを考えてございます。

以上です。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○３番（吉田正子君）

わかりました。

交通の利便性が充実し、高齢者が安心して、生きがいを持って暮らせる町が人口減少の歯止めになると思いますが、町としての見解をお伺いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

超高齢化の進行とフレイルによる出控え、また今後免許証返納の懸念等を鑑みますと、高齢者が安心して暮らすためには移動サービスの重要性は今後ますます高まってくると認識しております。一方で生産年齢人口の減少やコロナ禍等によりまして公共交通の利用者は減少しておりまして、公共交通

の維持が容易ではなくなっております。人口減少に歯止めをかけ、町の活性化や地域コミュニティの醸成を図り、若い世代も含めた定住、魅力を作っていくためには安心して利用できる移動サービスの実現が重要であると考えております。今後も引き続き住民ニーズに寄り添いながら、交通で住民の暮らしを変え、人口減少の課題が解決できる利便性の高い最適な交通ネットワークの検討を行ってまいりたいと思っております。

○議長（管野英美子君）

吉田正子議員。

○３番（吉田正子君）

阪急バスの本数も減り、能勢電鉄の全てのダイヤが山下で乗り換える状況になりました。乗換えに３分程度しかなく高齢者には大変な負担です。これからも話し合いを続けていただくことを切望いたします。これによって私の１２月一般質問を終わらせていただきます。

○議長（管野英美子君）

以上で、吉田正子議員の一般質問を終わります。

議場換気のため、暫時休憩いたします。
再開は午前１０時３０分といたします。

（午前１０時１８分 休憩）

（午前１０時３０分 再開）

○議長（管野英美子君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、寺脇直子議員を指名いたします。

寺脇直子議員。

○５番（寺脇直子君）

それでは議長より御指名をいただきましたので、これより一般質問を始めます。

まず初めに財政健全化に向けて質問します。

現在、日本は他国に類を見ないスピードで高齢化社会が進んでおり、子どもの数も

減少してきております。2040年には第2次ベビーブーム世代が65歳以上となり、日本の超高齢化社会は一つの頂点を迎えるとされています。また社会保障費の増大なども予測されており、本町においてもこれらの課題に対応していかなければなりません。また最近では自治体の財政危機や財政非常事態宣言などを発する自治体が増えてきています。特にこのような宣言を出すのは都市自治体において多くなっておりますが、本町の財政逼迫について、現在これまで抱えてきた財政運営の問題点が表面化しております。令和4年度決算見込みの財政調整基金残高と来年度以降、毎年の不足額を補填する財源について、どのように取り組んでいくのか伺います。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

おはようございます。

令和4年度決算見込みにおける財政調整基金の残高は、12月補正予算を反映させた時点で約9億3,900万円となっています。決算ベースにおきましても、令和元年度の決算が14億9,700万円、令和2年度の決算が14億2,900万円、令和3年度の決算が13億2,500万円と財政調整基金の残高は年々減少しているところです。厳しい財政状況の主たる要因は、東西に分かれている本町の地理的要因と、人口急増機に整備した公共施設をそのまま運営しているため、維持管理費や人件費を含めた経常的な運営経費が負担となっていることによるものです。即効性のある歳入増加策のない中で、短期的には事業を十分に精査することにより予算編成において事業の選択と集中を行うこと、中長期的には現在取り組んでおります公共施設の再編等により経常経費の削減に努め

ることにより歳出の削減に取り組んでまいります。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

事業も選択と集中をして、経常経費の削減というのは待ったなしの状態だと思うんですけども、自治体の財政危機について全国的な話題となっているのが京都市なのですが、京都市は国際的な観光都市で、コロナ禍によるインバウンドの落ち込みが財政悪化の要因となっているわけではなくて、恒常的な財源不足を公債償還基金からの取崩しが増加して多額の満期一括償還、地方債の償還期限がくるため、京都市は歳出削減に向けた財政運営を進めるという判断となりましたが、本町においてもこの不足額を財政調整基金を取り崩して黒字にしておりますので、この現在の財政調整基金枯渇問題に直面しております。令和3年度決算の経常収支比率は90.5%、財政調整基金も減少しており、減債基金も積み立てている状況ではありませんが、この学校の再編や公共施設の再編など新たに多額の投資的事業が実施できる状況なのか、財源はどのように見積もっているのか伺います。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

豊能町の令和3年度決算における経常収支比率は90.5%で、前年度決算の99.8%よりは9.3ポイント改善しています。歳入では普通交付税の増加に伴い経常一般財源などが約3億4,800万増加したこと、歳出では退職手当を含む人件費に係る充当一般財源の額が約1億3,000万円減少したことによるもので、町税の減少傾向が依然として続くなど厳しい財政状況が続いております。厳し

い財政状況の主な要因の一つは、人口急増期に整備した公共施設をそのまま管理運営している状況です。義務教育学校の整備は教育環境の充実を図る施策として進めるものでございます。ただ、一方で小中学校6校を2校に集約するという点においては、ほかの公共施設の再編と同様に経常経費の削減に資する部分があり、財政運営上にも効果があると考えています。財源につきましては、国庫補助の対象となる施設はできる限り補助金の確保を目指した上で、残額については地方債の借入れによる整備、特に有利な財政支援措置がある過疎対策事業債の活用を視野に入れ、トータルコスト的な考え方で事業を進めていきたいと考えています。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

学校も生徒数のこともありますし、学校の再編も含めてトータル的に公共施設の再編そして経常経費を削減していくということで、そのような取組は引き続き取り組んでほしいんですけれども、また現行のこの予算制度自体が現金主義により歳出予算を計上する方式になっておりますので、この投資した資産コストですね。資産コストを減価償却費で計上する方法でないため、費用対効果を分析する点では現金主義の予算編成というのは正確なコスト把握が難しい課題を抱えているとされています。昨日の小寺議員の質問では、現在財務諸表を作成中とのことですが、この課題については各地方自治体で人件費や資産コストを計上した事業別コストを把握するために各自治体で別途作成するなど工夫をしている自治体も出ております。また学校の再編や公共施設の再編については数十億円の投資的事業となりますので、先ほど答弁ありましたよ

うに地方債を発行して20年、30年かけて償還していきますから、財源も確保していかなければ事業に着手できないと思いますし、またまちづくりの観点も必要だと思います。一度大きな事業に着手してしまうと工事も途中でストップできませんので、20年、30年、場所も移動できませんし、まちづくりの観点からもやはり慎重にしかし早急に取り組まなければならない状況だと思っております。また災害発生時、本町も災害多発しますけれども、一時的に必要となる資金の備えが重要だと思いますし、それは財政運営の安全性を保つために重要です。そのため、この財政調整基金を標準財政規模の5%以上確保する必要がありますが、歳出のコントロールについて、事業の見直しや特に人件費と公債費が重要ですが、会計年度任用職員制度も導入され、職員定数管理や効果的な人材配置、施策別に組織を改革するなど、組織のマネジメント機能の強化について、どのように取り組んでいくのか伺います。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

令和3年度の決算において人件費の決算額は18億4,200万円、公債費は6億2,900万円となっており、歳出のうち大きな部分を占めています。特に人件費につきましては歳出決算額の約23%を占めており、その削減策が財政運営上も大きな課題となるところです。主な要因といたしましては、東西に分かれた本町の地理的要因とともに、職員の平均年齢の高齢化等が考えられますが、今後は既存の組織による枠組みにとらわれない事務作業の見直しや業務委託や指定管理などの民間の力を導入した施設の管理運営、行政DXによる業務の効率化など

様々な手法を活用し、既成概念にとらわれない効果的な人員配置に取り組んでいく必要があると考えています。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

本町の場合、現在、財政調整基金の枯渇というのは非常に重要というか、重大な課題だと思いますので、本当に今の答弁のように既存の枠にとらわれない、当然日本全体も人口減少時代に入ってきますので、今までと同じようなことを続けていくということは、全国的な自治体でもやはり新しいこと今までやってないことに取り組んでいる自治体も多いと聞いてますので、本町も歳出の削減についても事業を見直しをして、財政を健全化することで公共施設の再編や持続可能な財政運営を目指してほしいと思います。また、財政健全化に向けて住民サービスを縮小するなら、住民の皆さんに我慢を強いることになるんですけれども、そういうことをする場合、人件費も見直していかないといけないと思いますし、先ほど部長の答弁にもありましたように、本町の場合も決算カードで令和3年度の人件費18億円ですね。公債費6億円ですけども、補助費や物件費も9億円、繰出金や扶助費も9億円ですね。投資的経費も6億円かかっておりますので、この辺りの事業を見直すことで財政健全化を実現することができると思います。特に人件費というのは予算書の作成基準によって、目の総務のところにとまとめて計上されておりますので、これは事業別に分類されていないというところで事業成果をコストと比較しにくいという課題も上げられております。ですので今後、全ての事業をしっかりと見直す中で歳出削減を行っていく必要があると思いますし、先ほど答弁にありましたように、既存の枠

にとらわれない新しい組織のマネジメント強化にも取り組んでいってほしいと思います。次年度の予算編成改革について、具体的な取組を伺います。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

令和5年度の当初予算につきましては現在編成作業中であり、具体的な取組はこれから検討することとなります。当初予算編成方針におきましては、重点方針の1番目を将来にわたり持続可能な財政運営とし、法律で定められた事業以外の経常事業につきましては、近隣自治体と比較し、必要以上に高水準になっていないか、必要性・有効性を総合的に見直すよう徹底するとともに、その他継続的に行っている臨時事業につきましても廃止も含めて検討するようにし、経費の削減を図ることとしております。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

予算編成もそうですし、財政健全化に向けて単年度視点の政策形成というか、単年度視点の政策形成で予算を組むというのが通例とは思うんですけれども、今後将来のまちづくりのビジョンや総合計画に基づいた長期的な視点での複数年度予算という政策形成へと転換を図ってほしいと思います。また、政策会議の設置や決算成果報告書など、他市でもそのような取組をしているところありますので、本町においても参考にしてほしいと思います。持続可能な行財政運営に向けて中期財政運営プランを立てることで全事業の再検証の効果見込額も出てくると思いますので、財政健全化に向けてこのような取組を早急に進めてほしいと思います。

それでは次の質問に移ります。次に公共施設の再編について質問します。全国の地方自治体でも、将来の人口減少を見据えて公共施設の老朽化や公共施設の再編、統廃合の問題について取り組んでいます。公共施設の統廃合には大きな社会的・経済的影響が伴う問題であり、自治体として適切に対応していく必要があると思います。本町のように自治体財政が逼迫している状況において公共施設に係る財政支出が歳出抑制となる余地があると考えます。公共施設の再編など、財政健全化とまちづくりをどのように両立させて、財政運営に取り組むのか伺います。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

豊能町では現在、義務教育学校の整備及び公共施設の再編に向けて取り組んでいるところです。義務教育学校の整備は、先ほども申し上げましたが、教育環境の充実を図る施策として進めており、豊かな教育環境を提供することで教育を基盤としたまちづくりに資する事業と考えています。また公共施設の再編につきましては、現在、複数の施設にまたがる機能を一つに集約することにより、例えば人と人との新しいつながりを生み出すことが期待できるなど、住みやすいまちづくりに向けまちの活性化を図ることができると考えています。一方で小中学校6校を2校に集約する、あるいは既存の公共施設を集約するという点におきましては、本町の課題である経常経費の削減に資する部分があると考えています。事業の実施に向け初期投資は必要となりますが、事業費を精査するとともに、国庫補助金の確保や過疎対策事業債の活用など、できる限り町としての財政負担を抑制し、維

持管理費、運営経費を削減することによりトータルコストの面も含めて財政健全化とまちづくりを両立させていきたいと考えています。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

本当にまちづくりと財政健全化というのはリンクしてるというか、ニコイチというか、一緒に考えるべきことだと思いますので、今の答弁のような形でぜひ取組を進めてほしいです。公共施設に関連するこの財政負担というのは、建設費や維持管理費、維持補修費のほか、人件費、管理委託費、光熱水費などの運営経費もかかってきますし、本町はこの公共施設の老朽化に伴い、近い将来に公共施設の一斉更新とか建て替えが起こってくることが予測されておりますが、それに伴って膨大な建設費などが財政支出や国の補助金として発生してきます。今後これからのまた人口減少社会を見据えて、公共施設を縮減することも検討しなければならないかもしれませんし、それがコンパクトスマートシティへとつながり、公共施設の抑制が自治体の財政政策の焦点になると思います。そのため将来世代を見据えた財政健全化条例を制定してはどうでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

財政健全化条例につきましては、財政の規律と健全性を確保することを目的とし、財政運営の基本原則や計画的な財政運営に関する事項等を定める条例であり、大阪府や近隣市で制定されているところがございます。本町におきましては、現在条例の制定は行っておりませんが、まずは公共施設

の再編や既存事業の見直し等により経常経費の削減を進め、財政の健全化を図ってまいりたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

公共施設の再編の中で経常経費を削減する、まずはそれに取り組みたいということですが、近隣でもこの財政健全化条例を制定しているところもありますし、この条例のメリットというのは、将来世代にわたって長期間、財政を健全化することを維持することができるというメリットがありますので、そういうことも含めて今後検討してほしいと思います。また、全国的にもこの公共施設や公共インフラの老朽化も進んでおりますが、国と地方自治体の財政が一段と厳しくなっております。その中で公民連携によって効率的・効果的に公共施設を作る、守る、生かすことが求められております。公共施設の整備運営に関わる幅広い公民連携手法について今後本町も参考にしてほしいと思います。老朽化した公共施設の再編について、公民連携やPFI手法により、低廉で、良好なサービスなどを積極的に取り入れてはどうでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

本町で現在取り組んでおります公共施設の再編など、今後施設整備を行う際には、先ほど議員おっしゃいましたPFIなど民間の力を活用した手法を含め、様々な手法を検討する必要があると考えております。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

公民連携とかPFIというのは近隣市でも取組をしてるところはたくさんありますし、この公民連携やPFIなどの多様な手法ですね。民間のノウハウというか地域活性化にもなるというところで、この多様な手法や個々の事例にはそれぞれの各自治体の背景や状況は異なっておりますけれども、公民連携の共通する考え方があると思いますし、本町も今後、魅力ある町、地域の活性化というのは行政だけでは実現できませんので、近隣でもたくさんの民間企業が入って地域が活性化しておりますし、民間の持っている人材、技術、経験、ノウハウ、資金などの資源を活用して、余剰地などの未利用の資源活用や事業の効率性を高めていくことで、公共の財政負担を軽減することも可能となると思います。公共施設の再編に向けて、10年後、20年後を見据えて、減債基金や公共施設等整備基金を積み立ててはどうでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

基金の積立てにつきましては、基本的に決算における余剰金を財源としております。基金を取り崩さずに余剰金を確保することができれば基金を年々積み立てることが可能ですが、現在、本町では残念ながら財政調整基金を取り崩して財政運営を行っている状況でございますため、積立てを行うことができない状況です。積立金の必要性については十分必要性を感じておるところですが、即効性のある歳入の大幅な増加策が見込めない中、歳出の削減を行い、財政調整基金の積立額が取崩し額を上回る財政運営を行う必要があると考えているところであります。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

もちろん現在は財政調整基金の積立てというところが優先するべき状況だと思いますけれども、公共施設の再編というのは、社会資本は老朽化すると必然的に寿命を迎えることとなり、更新や建て替えが必要となりますけれども、この公共施設は地方債の償還が30年とされておりますし、本町は近い将来これらの更新費が急増することが避けられない状況だと思います。ですので、30年で償還していくという財源確保のために、将来の償還に備えて減債基金や公共施設等整備基金を積み立てていく計画も考えていく必要があると思います。一般財源で償還していくと訳が分からなくなってくると思いますので、別途減債基金とか公共施設整備等基金を積み立てるという計画も検討してほしいと思います。

それでは次に、本町においては昨年からスマートシティプロジェクトに参画しており、今年度はデジタル田園都市国家構想に大阪府で唯一採択されております。公民連携の取組を進めていますが、今後公共施設再編も検討しなければならないため、公民連携推進本部会議を設置してはどうでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

少子高齢化、人口減少などを背景としまして、今や行政だけでは様々な社会課題を解決できる時代ではなくなってきております。これまでの取組だけでは自治体の運営が困難な状況となっている、そのような状態でございます。本町においても将来の人口減を見据えながら行政運営を変えていくことが必要であり、行政の資源やノウハウ

等が限られる中で、公共サービスに対する住民ニーズに的確に持続的に応えていくためには、厳しい競争の中でノウハウを積み重ねた民間企業等の力を最大に活用していくことが重要であるということは認識しております。また、民間企業等においても近年、社会的責任に対する意識が高まるとともに、自社のノウハウを活用した公民連携ビジネスへの期待も増大しております。既存の取組にとらわれず、民間事業者のビジネス活動を住民のためにどう役立て、地域課題の解決につなげるかという大きな視点に立って、さらなる進化を図る必要があることから、大阪府の公民戦略連携デスクと連携し、庁内に公民連携デスクを設置する方向で進める等、公民連携の取組を推進してまいりたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

既にもうスマートシティをきっかけとして公民連携に本町は取り組んでおりますので、ぜひそのような体制をしっかりと特化して、公民連携によるまちづくりについて検討して推進してほしいと思います。

次に、この公共施設再編について、公共施設適正管理事業債や過疎債、行政改革推進債などの起債が適用される点について、最大限に活用してはどうでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

公共施設の整備を初め、本町が事業を行う際、借入れを行う起債は今までも金利の低い政府系資金からの借入れを行い、また後年度償還時に普通交付税の参入がある有利な起債を中心に借入れを行っているところです。今後もこの方向性に基つき、特に

過疎対策事業債など利用可能な財政措置については最大限活用した上で起債の借入れを行っていきたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

一見過疎地に指定されてネガティブな感じがしますが、こういう過疎債という財源が新たに確保されますし、最大限に活用してまちづくりを進めてほしいと思います。ただこの起債は借金になりますので慎重に活用しなければならないと思いますし、本町の場合は将来負担比率、健全化判断比率の中の将来負担比率はマイナスですので、類似団体と比較して借金は少ない状況です。本町は財政が厳しい中で多額の投資的事業に着手していかないとけないという状況になっておりますので、先ほどの答弁にありましたように公民連携など様々な手法を検討し活用してほしいと思います。東京都の豊島区は、財政支出ゼロで220億円の新庁舎を建てております。厳しい財政状況の本町も参考にしてはどうでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

東京都豊島区の新庁舎は日本初のマンション一体型本庁舎となっています。再開発事業地の一部を小学校と児童館跡地とし、分譲マンションを上部に利用することで資産評価を高め、権利変換分として新庁舎に必要な床面積を無償で取得したことにより、豊島区の新庁舎の区役所は建物の1階の一部と3階から9階までであり11階から49階までは権利変換分を含む432戸の分譲マンションとなっており、それを売却することにより財政支出ゼロで新庁舎を建てる

ことができております。地理的な条件などから、本町におきましては豊島区の事例をそのまま活用することはできませんが、今後の施設整備を行う際にはこういった発想も考慮に入れた上で、民間の力を活用した手法を含め、様々な手法を検討する必要があると考えています。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

この東京都の豊島区というのはかなり結構事例として非常に注目されておられて、ちょっと取り上げたんですけども、この事例が本町にそのまま当てはまるとは私も思ってないんですが、ここは旧庁舎跡地に定期借地権を設定して、民間施設やホールからなる複合施設を整備しております。公共施設の再編は多額の投資的経費がかかりますので、地方債も30年の償還となりますし、本町の場合は財政状況が厳しいです。この公共施設の再編や学校の再編を検討していく上で、公民連携の場合は建設費用も町と民間が負担したり、また交付税措置もありますので、比較的町の持ち出しが少ない状況で建設できるという事例もあります。また愛知県高浜市は本庁舎の整備に財政負担の軽減を図るため、民間のリース会社に旧庁舎跡地を使用貸借し、地代は無償で建物の設計・建設を行い、完成後20年間は市に建物を賃貸し、建設工事と維持管理については地元の会社でリース会社から受注しているということで、ここの愛知県の高浜市も財政状況が厳しいというところで、様々な手法で公共施設の再編、新たに建設している自治体の事例は全国にもたくさんありますので、10年、20年を見据えて民間のノウハウも取り入れた、新しい、これからの時代に合った公民連携のまちづくりというのを検討し進めていくことで、若

い世代の方も入ってくる、入居してくるような町になっていくと思いますので、ぜひそのように取組を進めてほしいと思います。

それでは次に、北大阪急行延伸に伴う公共交通の再編について質問します。

現在、北大阪急行延伸に伴い、光風台駅から千里中央駅まで直通バスの実証実験が行われております。西地区は能勢電鉄も通っておりますが、東地区の場合、公共交通は阪急バスしか移動手段がないため、北大阪急行延伸に向けて、東地区のまちづくりを見据えた公共交通の再編について、どのように検討し取り組んでいくのか伺います。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

現在、地域公共交通構想の長期計画ということで、千里中央までの延伸というのを掲げてまいりました。それを実現するために、本年7月より既存の西線を再編しまして、光風台駅と千里中央駅の接続を新設し運行しているところでございます。現在は実証実験中ということもありまして、2年間ですね、これを進めていくことによって乗客数等を見据えて今後どうしていくかということを考えていくことになっております。東地区につきましても、もちろん同じく公共交通は住民の生活の利便を図るという意味では非常に大切であることということを考えているのには違いはございません。これまで大阪府と公共交通事業者と今後の町の交通についての取組にも情報共有を行いながら検討してきているという状況にございまして、持続可能な交通のネットワークの再編やまちづくりなどと一体となった魅力ある公共交通を総合的に再編を図っていかねばいけないと考えておりまして、地域公共交通計画の策定を行おうと現在し

ているところでございます。今後、地域公共交通会議において議論を深めてまいりたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

現在のこの西地区で光風台駅から千里中央駅までの直通バスの実証実験は1日何人乗っているのでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

現在、西線の1日の乗客数は約500人でございます。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

500人乗ってるという現状ですけれども、この500人の人数で実証実験としては、あくまでも実証実験ですので、この500人という人数で今後、北大阪急行延伸に向けて実現していくことが可能なのでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

現在の乗客数では、現在、実証実験としております人数にはまだかなっていない状況でございます。この実験を行うに当たりまして、今後検証していく中で900人以上の見込みがない場合については最適な運行方法を再検討するということになっておりますので、今後900人、500人では足りないということです。そちらに向かって検討を進め、たくさんの乗客数が得られるように施策等を打ってまいらないといけないというふうには考えております。

○議長（管野英美子君）

寺脇直子議員。

○5番（寺脇直子君）

北大阪急行の延伸は箕面市のことなんです、本町においても非常に利便性が上がってくるというところで、まちづくりを見据えた公共交通というところで取組を進めてほしいと思います。例えば東地区なんですけれども、希望ヶ丘の3丁目から彩都経由で千里中央行きのバスが約1時間かかります。この路線は余野から希望ヶ丘、茨木の上音羽から箕面の栗生間谷、外院、白島から千里中央行きのバス路線になっており、豊能町から茨木経由の箕面、千里中央と非常に広域的なバスの運行になっております。ただこの1時間というのが本町、希望ヶ丘も非常に高齢者が多いというところで、高齢者の方からはちょっと1時間乗って千里中央に行くのは非常に厳しいというお話、御意見も私も伺っております。ですので東地区の場合、今、西地区については光風台から千里中央に直通バスということで新規のバス路線で、企業団経由で実証実験行われておりますが、東地区の場合は阪急バスしか通ってないんですけれども、新規のバス路線で実証実験をしてほしいということではなく、先ほど申しましたように、余野から茨木の上音羽から箕面の栗生間谷という非常に広域的なバス運行を行ってるんですけれども、例えば箕面森町の、希望ヶ丘の住民の方は箕面森町やトライアルに行く方もいるんですけれども、箕面新町の地区センター止まりのバスを1日何本か、希望ヶ丘や牧という東地区のほうに広域的にちょっと何本か延ばしてもらうだけで豊能町の住民も乗る人が増えると思いますし、阪急バスも乗る利用者也本町の住民が乗れば利用者也増えますので、そしてまたこちらの豊能町から能勢町にかけても非常に利便性も向上してくると思います。住みやすい

町につながってくると思いますので、今後アンケート調査なども活用して、この大阪の北摂地域ですね、一体的に利便性が向上していくために、広域的にバス路線についても住みよい町に向けて取組を進めてほしいと思います。これは私の要望でございます。

以上で私の質問を終わります。

○議長（管野英美子君）

以上で、寺脇直子議員の一般質問を終わります。

議場換気のため、暫時休憩いたします。

再開は午前11時30分といたします。

（午前11時17分 休憩）

（午前11時30分 再開）

○議長（管野英美子君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、秋元美智子議員を指名いたします。

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

秋元です。お世話になります。議長より御指名いただきましたので一般質問させていただきます。

早速ですが通告どおり進めていきたいと思っておりますのでお願いいたします。

22年7月1日から、新たに阪急バスが光風台駅からグリーンロードを経由して千里中央へと、1日6本、社会実験ですけれども運行されるようになりました。私は新光風台に住んでますけれども、本当におかげさまで新大阪までは近くなり大変助かっております。そういった、これまでの経緯も考えまして、まずは関係者の皆様にこの取組、お礼を申し上げたいと思います。

ところでこの計画では、ときわ台駅にバスを乗り入れることになっておりますが、道路を拡張する必要があるとのことで先送りになっております。この点につきまして多くの住民がその実現を待っておりますの

で、いつ頃ときわ台駅へのバスの乗り入れが実現可能となるのか、その進捗状況をお尋ねいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

令和4年の4月の28日に開催しました地域公共交通会議におきまして、合意のありました豊能西線の再編につきましては、議員からおっしゃられましたとおり7月1日より実証実験を行っておりまして、一部便を千里中央へ延伸しております。再編計画ではリレー便を廃止し豊能西線をとときわ台駅に接続する計画としておりますが、ときわ台駅周辺の道路の整備が必要な箇所があるであろうということもありまして、現在、暫定の計画としまして西地区デマンドタクシーをとときわ台駅へ接続し運行しているところでございます。御質問の豊能西線のとときわ台駅の接続についての時期でございますが、現在、大阪府公安委員会及び交通事業者との間で実現に向けた協議を行っている最中ではございますが、具体的な時期については明確になっておりません。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

いつ頃か、せめて町としてはこのぐらいの時期という、そういった覚悟というか気持ちを持ってまず取り組んでいただきたい。これはお願いです。

それで実際に道路の拡張っていう課題を抱えているわけですから、この道路の拡張部分ですね。それから拡張する場合にどういった構造にするか、こういった設計図はできてるんでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

お答えいたします。

平成30年度時点で、当時、大型バスを想定して道路改良も検討しておいた時期がありまして、今回そのバスを走行するに当たりましては阪急バスさんと協議を行った結果、ときわ台地区については実験的に中型バスを走行させるということになりまして、それを調査検討した結果、11か所の改良が必要であるということでした。しかしながらその改良の工事の内容なんですけど、停止線の改良であったり街路樹の伐採であったり、カーブミラーの新たな設置だったり、通行看板の、「通行注意」といったそういった看板の設置だったりということで、中型バスを走行するに当たっては道路の拡幅等の必要性はないというところでございます。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

というと、私から見ると大型バスから中型バスによって道路の拡張をしないで済むようになったと。これっていうのは大きな一歩前進と思えるんですが、大型バスから中型バスへの移行そのものがまず決まっていないということなのかしら。それとも既に中型バスにしようっていうところでは関係者の意見というのはまとまっているのか。どう捉えているのかお尋ねします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

これまで千里中央に向けたバスを運行させるということについては阪急バスとずっと協議を行ってきました。中型を走らせるということは阪急バスからはこれまでは想

定をされてなくて、経営を考えると中型バスでは赤字が出るのではないかということで、大型ということですとおっしゃってきていらっしゃいました。ただ、今回というか昨年から町全体の交通についてという考え方を阪急バスの企画部局と話をすることになってきた段階で、まちづくりとしては今後考えていくに当たって、実証実験するに当たっていろいろな方法を組み入れていったらいいのではないかという話も出てまいりまして、初めて中型バスで実証実験をしてみようかということが阪急バスのほうから上がってまいりましたので、中型で運行していただけるということで少し進んでいっているという状態にあります。今回の実証実験の中で、中型バスで本当に千里中央までの運行が行っていただけるかどうかというのも鑑みた上で、中型バスでの運行も考えていきたい、並行して中型バスでもいけるのかということも、阪急バスも利益等も見ながら考えていきたいというような御意見もいただいておりますので、今後、中型バスで進めていくということが決まりましたら、先ほど道路関係のお話があった部分ですね。その部分についてはこれまで進めてきた大きな道路の改良というのはしなくても千里中央まで延ばしていただけるのではないかというふうに考えております。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

お話をお伺いすると何か実現に向けて大きな過渡期かなというふうに思うんですね。それでバスの乗り入れというルート変更などは、町独自に進めることのできない施策ですのでいろいろな難しい点があるかと思うんですが、今のお話の上で差し支えなければ、現在ときわ台の乗り入れに向けてどのようなことが大きな課題になっているの

か。何か今のお話ですと双方うまく歩み寄っていけば実現されそうに思うんですが、特にまだ手続的な問題ですとかそういったことを含めてその実現の時期がはっきり言えないとおっしゃっているのか、この辺りをお尋ねします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

阪急バスとの実証実験をもう一つ、今、考えているのはA I オンデマンド交通でございます。A I オンデマンド交通はまちづくりの中でこれまでずっと考えられ課題とされてきておりました、高齢者の方のラストワンマイルということで、バス停まで行かなくてもバス停より近いところから乗り降りができて目的地に行けるのではないかということが出てまいりまして、来年2月にイベント的にまずは御覧いただく、阪急バスのワゴン車、A I オンデマンド交通が走っていきます。こちらの実証実験と併せて、今後計画を立てていくということにしておりますので、こちらのA I オンデマンド交通を町なかで走らせる、プラスして千里中央までのもの、2年間の検証の中でどういうふうに考えていくのかということも並行して阪急バスと協議しながら進めていくということが、進捗の中で今ある課題というか、並行して進めている内容でございます。それをするに当たりまして大阪府の公安委員会のほうとも調整しながら二つの実証実験を進めておりますので、今後はこの実証実験を見据えながら、まちづくりの中での交通の施策をどのようにしていくかというのを計画の中に立てていくということになると思います。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ということは2年間の実証実験が待っている。それによってのときわ台駅というふうに理解していいですか。ですから最長期間考えた場合に2年先の実現になってしまうんですけども、まずそれでいいのかどうか。あまりにもちょっと長過ぎるんじゃないのかなと私自身思いますので、きちっと町のこの方針というのをお尋ねしたいと思います。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

現在は交通を地域公共交通構想の中で進めておりますが、今年度と来年度かけまして地域公共交通計画というのを立てていきます。その計画を立てた中に、今後の町を走らせる交通についての計画が、今ある構想からさらに計画という形で作ってまいりますので、その中で全てがこの実証実験を経た後、示されるということになっていきます。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

それは今後に取り組みに期待したいと思います。

それで今度ときわ台へ乗り入れる場合、そのバスの走行ルートですね。具体的にまだでき上がっていないのかもしれませんが、2月28日の地域公共交通会議資料に、オレンジ色の線で、これは西地区の京都タクシーによるデマンドタクシーのルートが書かれています。この中でこのデマンドタクシーはときわ台の駅から登ってきて8の字を描いて西公民館の前の信号を左へ曲がって、今、箕面の病院へ行って、そこで折り返してときわ台行くというオレンジ色の

ルートがありますけれども、ここのルートですね。このルートを参考にとときわ台駅へバスを乗り入れる場合、全く違った線が書かれるのか、それとも現在のルートを活かそうとしてるのか、それをまずお尋ねします

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

最終型としましては、光風台駅から出発する今の路線の中にとときわ台駅に降りていくという路線を延長するというか、含める、そのような形で路線は書かれていくということになります。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

そうなった場合、現在の時刻表も変わってくるかと思うんですけども、それはさておき、そうなったときに、そういうふうなバスが走るようになったときに、この地図からいきますとユーベルホールの前を通りますね。ユーベルホールというのは駅から歩いていくには遠いし、といって車で行くには駐車場が少なく、これは原因というか要因で確かにあの集客の低さにつながっていますわね。つながってるんです。そこでこのユーベルホールに近いところにバス停を設ける必要があるかと私は思ってます。必要があると。もう既にバス停の位置なども構想の中に入っているようでしたら、どこになるのかお尋ねします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

今の御質問だとユーベルホール前にバス停の増設というふうに受け取られるんです

がこれについては検討はしておりません。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

それは検討する余地があるという答弁ですか。この後考えてる。それとも既にいろいろ検討した結果、ユーベルホール前はもう無理だという、そういう意味での検討してない、どちらにもとれるんですけども。お願いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

バス停を決めるのは阪急バスでございまして、阪急バスのほうが決めていくということになっていくのかなと思いますが、ここにバス停を設けるとすると、町側的には道路環境的にいけるのかどうかですとか、乗客のニーズですとか前後のバス停がございしますので、そのバス停との距離感等を検討していくことが必要になっていくのかなと思っております。改めて再度A I オンデマンド交通の実証を今後進めていく中に、バス停よりも広く乗客ポイントを作って進めていくということがございますので、A I オンデマンド交通でここの部分がカバーできないかということも今後考えていくということになっていくであろうと思います。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

ユーベルホールは公共施設再編計画の対象になってますね。昨日も中川議員が触れていましたように、あの音響のすばらしさを口にされる専門家は1人、2人じゃないですね。来られた方全てがすごいということ。を口にされるぐらいすばらしいものらしいです。確かにあのホールの中で聴いてる

歌や何かとあそこから一步出て廊下側で聞くのとは全然違います。そういったことから素人の私でもすごいもんだなと思うんですけどもね。この先ユーベルを本当に公共再編計画の対象として使わないという結論を出す前に、やっぱり何かしら集客路を見つけ、それによってどうするか、そういう結論を町として出す必要があるかと思えます。ちなみに先の町長選挙は学校再編計画の中で町がユーベルホールを潰そうとしてると、こんなうわさがばらまかれました。全然そうではなかったのに、当時は。私の記憶によりますと塩川町長もたしかユーベルホールを潰すことには反対だというお立場だったと思いますね。そういったことも含めまして、町としてもうちちょっとユーベルホールを中心に、この交通、オンデマンドでも結構です。やっぱり何とかしようというそういった意気込みをもうちょっと持っていたきたい。阪急バスがとかいろいろあるかもしれないけども、それでもやっぱり自分の町、うちの町はこうだというそういった意気込みを持って、ぜひこれ考えていただきたい。簡単に、結果出ました、再編計画の対象になりました、ユーベルがなくなりましたという以前に、きちっとしたデータをぜひ出していただきたいと思えますので、これは要望で終わります。

次に戸知山の活性についてお尋ねいたします。

戸知山はある企業が研修センターなどを有するために開発したもので平成16年9月、2004年ですけども町に寄贈されました。ちなみに議会は一切町からの事前相談を受けていませんでした。当時在籍した先輩議員たちから、開発するときから問題を抱え、電気も上下水道設備も完備されていないし、企業が活かしきれなかった土地を町がどのように活用しようとしているのか、とか寄

贈を受けなければ多少でも固定資産税が入ったのになぜこういった議会の判断、意見を聞かなかったのかと言った、つまりこの先の町の負担の重さを心配する声がかかなり出されてました。あれから18年過ぎまして固定資産税が入らないどころか草刈りなど年間維持費だけでも平均3,000万円として約5,400万円です。このほか某業者の岩石採取工事が原因で浚渫工事をせざるを得なくなりました。その費用に加えて裁判費用、土地購入費さらに4,860万円という多額の費用をかけて道路水路を補修し、この9月には別途道路補修工事で1,420万円が計上されるなど、私が知っているだけでも1億2,000万円以上の経費が投入されてきました。やっぱり町もそうだと思います。一刻も早くこの情報を出さなきゃいけないという思いは持ってると思うんですけども、そこでお尋ねします。昨年3月にこの4,860万円の道路補修費を計上されたときに、確か2、3の企業から問合せがあり、現地を視察していただくためには道路を補修する必要があるとの説明をされていたかと思います。その後、今日までの約10か月間の間に現地を視察した企業は何社ありましたか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

現地を視察した会社につきましては4社ございます。現在、日程調整中の業者が1社ございます。調整中も含めて5社というところになります。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

その具体的に來てるのが4社。視察した。4社が視察したっておっしゃってますね。その後このところを活かしてみようかな

というふうに話の進んでる企業は何社ありますか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

現地視察後、4社については何度か事業内容の説明等に來られております。ただ、実際にいつから活用するとかどのように進めていくかという具体的な話には至っておりません。ただ、その4社につきましては今のところ完全に話が消えたというわけではなくて、今現在継続中というふうな認識で私どもおります。実際に事業を実施するに当たりましては、事業公募の実施など公平性を確保する必要があるというふうに考えております。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

この18年間の中に視察した会社があったと思うんですね。多分あったはずですね。それでその後もお話しして、もしかしたらそれら全部継続中っていう形になってません。どうも町のお話を聞くと、きちっとお話しして、じゃあ使うか使わないかばちっと決めるというふうな流れには見えないんですけれども。ということは、それは私のうがった見方で申し訳ないです。現在継続中の会社というのはこの4社以外に何社ありますか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

町がこの戸知山の土地を取得してから何社かずっと、事業をしたいということで御提案といえますか、現地を御覧になった事業者さんはいらっしゃいます。ちょっと具

体的に何社かというのを把握しておりませんが。ただ、その業者さんにつきましては一度戸知山を御覧になってから、そのまま話が立ち消えになったとか、それから連絡がないというふうな状況でございます。先ほど4社と申し上げましたのは、比較的新しいといいますか、今年度に入ってからこの4社というのが視察に来られております。その業者さんにつきましては、今、その工事をしていることもありまして、現在まだ継続中というのか、まだ、もう諦めたというふうな御返事もいただいておりますので、今後もし、例えば事業公募を実施すれば、確実ではございませんが参加していただける余地があるのではないかというふうに考えている状況です。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

4社についてはこの10か月間何かありましたかといって、継続してますっていうことで答弁いただけてますのでわかるんです。でもその前から継続してる会社も当然あってしかるべきかな、いやないだろうなと思ったり、そういった意味でお尋ねしましたけど、4社だってことで今後、町が相手の返事を待つんじゃなくて積極的に攻めていってほしいと思います。よろしいでしょうか。

それで、私、心配してるのは戸知山っていうのは上下水完備されてませんわね。網もかかってますけど。町として戸知山を子どもたちの体験の学習の場にしようとして多分考えられたんでしょう。10年ほど前になりますけれども、池田町長を先頭に職員たちの手で木を伐採して広場を作って、伐採した木を活用するために炭焼き窯を作って炭を焼いて、200本以上の木にシイタケ菌を埋め込んで、そういった活動をしてきた

ことありました。クリの木も植えてました。私もここにいる高尾議員も、福岡議員もたしか一緒だったと思いますけど、何度かそのシイタケの菌を打ち込みに手伝いにいったことあるんですけども、その後私ちょっと議会を離れてました、4年間ほど。そして再度戸知山に行ったときに、何と、広場も炭焼き窯も栗林も見る影もなく、この町何なんだと。という以前に、もう職員の手でやってくには無理があるなというふうに思ったんですね。その職員の方々責めるんじゃないし、その経緯がどんなことだったのか、できたら御答弁いただきたいと思いますがそれは違う話ですので、これは個人的に後で教えてください。さらに4年ほど前になりますけど、今度議会は当時の橋本議員が議長が中心になって戸知山の活用についての提言を出しておりますね。大きく四つ、先ほど言いました現状活用、それから民間活用、公的活用、それから四つ目に町直営事業となっておりますが、それぞれについてまた実施方法についても触れております。その資料はここにいらっしゃる方の何人が目にされてるのかな。お尋ねします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

私も含めましてある一定の、部長級の、ここにいる職員は目にしておるというふうに認識しております。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

では部長にお尋ねしますが、提言の中では観光農園とかオートキャンプとか自転車のイベントとかいろいろ上げてますよね。これらの民間の誘致に向けて町として自ら

足を運んできたという取組はあるんですか。それとも常にどこからか視察に来るのを待ちの姿勢なのか、町が自ら足を運んでこういったことを誘致しようと活動をしてきているのか。もし今、分かるようでしたらお答え願います。私自身はもう一つこの後に、こういったこともありますよって提案もさせていただきたいので、町自ら常に待ちの姿勢であるならば、もうちょっと提案してもどうしようもないかなっていうふうな、そういう思いも持っておりますのでお願いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

私の記憶の限りでございますが、町のほうから、例えば企業に対してアピールをしたに行ったという記憶のほうはございません。残念ながらございません。企業から提案があれば戸知山のほうの視察に同行して売り込みをしているという状況でございます。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

いきなりの質問だから、アピールしたことがもしかしたらあったのかもしれませんがね。前向きに捉えたいと思います。ただ、町自らいろいろな手で何とかしようと思っても、先ほど触れたように現実には続かない。無残な結果になります。それは置きまして、私のほうから戸知山の活性に向けた提案として、通告書の3で触れております。読ませていただきます。「国は、ウクライナ情勢から、下水処理汚泥を活用して農業現場での肥料の国産化に本腰を入れることにした。」。佐賀市では、下水汚泥の全量を肥料に加工し、販売量を伸ばしているとのことですが、この国の動きにつきましてでは、

10月9日付の読売新聞に掲載されています。皆さんもこれ読まれたことと思いますので、どこからの情報かということだけの意味で10月9日の読売新聞を紹介させていただきます。豊能町に農作業携わってる方が多いし、し尿処理施設あることから、この国の動きを機に、戸知山を活性化してくれる企業を待つ身から、自ら起業、起業といってもどこかの企業に委託するとか誘致するとか、そういったほうにぜひ踏み出していきたいなという思いを持っておりますが、まずいかがですか。こういった国の動きに合わせてそういうふうな方向に乗り出すという町の余裕はありますか。町の余裕ですねこれは。お願いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

財政的な事情もございまして、町の事業としてももちろん補助金等々を活用して、町としていわゆるその事業が維持できるというふうな、トータル的に見て維持できるという公算があれば、町としても乗り出すことはできるかと考えておりますが、今現在のところではそういったことはなかなか難しいのではないかと考えております。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

私、この新聞記事を読んだときにすごいいいなと思ったんですが、さっき触れましたように現地は下水、上水道設備がありません。それで果たしてそれが可能かどうか調べさせていただきました。そうしましたらあったんですね、現実には、そういう装置が。というのは水処理を伴わずに微生物をもって堆肥化する。しかも独立した、そういった装置があるんですね。豊能町のし尿

処理の年間処理量は、令和2年度の決算によると本町と摂津市と合わせて約1073.3キロですわね。これだけではちょっと設備投資するには無理があるなと思って、その会社に問い合わせたところ、学校給食の出てきた残飯類ですとか、それから剪定された木くずですね、そういったものも堆肥化することができるんですね。要するに戸知山の整備維持のためにその剪定くずはたくさん出てきますし、それを変えて堆肥化するには材料に事欠かないし、実際その会社へお邪魔してどういったものか触らせていただきました。それは粉状から粒状から3種類ほどありましたけど、匂いも何もないです。微生物に特許を持ってるんですね。さらにお話をお伺いすると既に全国13か所の自治体がこの設備を導入して循環型農業事業としての成果を出しております。ですからそれぞれ諸経費が幾らかかるのか、国の補助金はあるのかどうか、課題は多々ありますけれども、ぜひ、資料をいただいてまいりましたので検討していただきたいと思いがいかげんでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

今回の御質問をお受けしましてから私どものほうもこの佐賀市の状況等も調べさせていただきました。佐賀市のほうは年間汚泥を濃縮後、脱水処理した汚泥、これ約8,000トン、それを1,400トンの肥料として堆肥化し、販売し、非常にそれが市の財源として有効に活用されているというふうにお伺いしております。本町のし尿処理場であります豊能町衛生センターの年間処理量は約1,000トン、そのうち汚泥の処理、それから濃縮脱水処理後の汚泥の量というのが2.3トンということで、規模的にも大分ちょっと

少ないものとなっております。先ほど秋元議員がおっしゃられたとおり、学校給食の残渣あるいは戸知山にあります木の木くず等々を活用しましたとしてどこまで事業として成り立つのか、それについては初期費用もございますし、今度その処理を誰がどのような形で維持管理し行っていくのかというところもございます。今後もこの戸知山の活用につきましては、基本的には民間による整備、民間の方の力を活用として行っていきたいと考えております。ただ、こういった各市町村の行う事例も調査いたしまして、例えば公民連携というふうな手法をとりまして、補助金も活用した上で、もし町としても実施できる事業があればそれも視野に入れて検討したいと考えております。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

まず私の通告書を見ていただいて、その後で調べていただいたことは感謝申し上げます。それでおっしゃったように処理量は足りません。というよりも佐賀県のほうが大規模過ぎます、佐賀市のほうが。先方にその話もしましたら、もっと小さい栃木県の益子市ですとか、そういったところがありますし、どうも機械、装置そのものもいろいろなサイズがあるようです。ですからそういったところも見ていただきたいし、これはどこの町のことを言っていたのか分からないんですけども、自分たちが機械で作った肥料で畑を自ら作って、そして観光農園みたく、そういった事業まで広げている自治体がある。しかもそれは自治体が行ってるんじゃないで、今おっしゃったように官民連携で行ってるのか、いろいろな例を出してくださいました。ですから私は非常にこの町、農業、特に東地域の農業の活性

化を考えた上でも、やっぱり非常に検討すべきいい材料ではないかなと思いますので、今後また別の機会に、私自身ももう少し調べさせていただいて、この質問というか、深めていただけたらありがたいと思います。これはお願いで、また機会がありましたら質問させていただきますのでお願いします。

それで三つ目の質問になりますが、公共施設の再編計画のお話です。この11月15日開催の公共施設再編検討委員会から最終報告書として骨子案が提示されました。その中で東地域のことについて、地区についてお尋ねします。重複している施設の機能などを集約することを前提に、中央公民館、国保診療所、永寿荘、ふれあい文化センター、郷土資料館の各施設を集約し、複合施設にすると書いてますね。これは五つの施設を一つの建物の中におさめることを意味しているのか。まずちょっとこの文章の意味をお願いします。なぜ質問するかというと、国保診療所と郷土資料館というのは重複してる部分というのはどの部分を言ってるのかなと私自身思いますので、もしかしたら三つかなどうかなというふうな、そういった意味もありますのでまず確認。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

秋元議員の御質問でございますけれども、11月15日につきましては骨子案ということでございまして、その後11月29日に開催いたしました公共施設再編検討委員会におきまして最終報告書案ということでございまして、先ほど議員がおっしゃられたとおり、中央公民館、国民健康保険診療所、永寿荘、ふれあい文化センター、郷土資料館の各施設を集約化し、複合施設として中央公民館から本庁周辺に新規建設する案を

軸に検討すべきとしたところでございます。この考え方につきましては、今ある施設が提供している機能を踏まえながら、特に公民館とふれあい文化センターが有しているコミュニティ機能を一定整理していくもとに統合していく、その上で必要な施設機能を残しつつ見直すべき機能を見直していくということでの施設のスリム化を図るとともに、利用者の動線を配慮した上で国民健康保険診療所の診療の機能を備える方向で検討していくことが望ましいと考えたところでございます。確かに議員おっしゃるとおり、国保診療所と公民館が機能が違うのではないかというところはございますけれども、国保診療所につきましては耐震化施設であるということでございますけれども、施設の老朽化が進んでいるということ、また郷土資料館につきましては未耐震ということで、同じく老朽化がかなり進んでいることから、お互い施設更新が課題になっているという状況でございます。一方で公共施設が余野地区周辺に一定集約されているということでございますので、それぞれの施設を長寿命化更新もしくは転用を図るのではなくて、各施設を集約し複合施設化をすることによりまして、この東区のシンボリックな存在、中核拠点施設として住民の利便性の向上、行政サービスのワンストップ化を図ることが可能となるため、この集約化の方向性を打ち出したものでございます。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

五つの施設を一つの建物の中に入れる、これはわかりました。その後ですね。新築とおっしゃいましたね。新築の場所は中央公民館から診療所とおっしゃいましたね、本庁。これってもともとあそこは道の駅を作ろうという計画の中で、何が理由で白紙

撤回になりましたか。町長答えてください。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

お尋ねの趣旨というものは、私が就任をしたときに道の駅構想を白紙撤回をした、それに関連するものだと思っております。今回お尋ねのように、公共施設再編計画の最終報告と乖離をしてるというような御質問というように承らせていただきますが、公共施設の機能を見直して将来の人口に合わせた、見据えたいいわゆる検討を行っております公共施設再編と、単なる潰すというものとは全く違うというところで、乖離してる問題ではないと。当時、平成30年のときには、国保診療所、中央公民館、旧双葉保育所3,000平米としたところを作るということでしたけれども、その段階でその機能をどこに集約するかというのは全く示されておりました。その実施設計が始まるというところでしたので、それらの機能、住民に直結する機能をしっかりと入れない限りは実施設計に進められないということで止めさせていただいたものでございます。今回はPTも含めて、住民の皆さんの利便性を含めた形での機能の見直し、重複、そういう部分もしっかりと視野に入れて、現在の集約化、複合化というところをしっかりと検討した上で、今、進めておりますので全く違うものだというふうに理解しております。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

読みましょうか、町長。「道の駅構想については採算性の問題、国保診療所、中央公民館など公共施設を潰す問題、公共施設の再編計画がない問題の観点から白紙撤回

を行いました。」。はっきり言ってるんですよ、公共施設を潰す問題と。要するに中央公民館、診療所を潰すなど。だから私は今回お尋ねしたかったんですね。実際その町長のお考えと乖離してるようだから、もしかしたらこれは中央公民館の中に五つの機能を集約するのかなと。ところがどっこいですよ。新しいものを建てると。しかも住民の利便性を真剣に考えてと。あの道の駅にしたって10年かけて東地域の活性化を考えた結果ですよ。白紙撤回するのも結構です。結構っていう意味じゃなくて。白紙撤回するでなくて延期でしょ、代替案でしょう。昨日の質問の中で、トヨノステーション、これ何だかはっきり分からない。どうなってます、この町。町長は全然矛盾してない、乖離してないとおっしゃいますけど、私には乖離してるように見えます。そこでちょっとお尋ねしますけれども、今後、どの施設を整備・更新し、どの施設を縮小・廃止していくか、町の責任において煮詰めていんですよね。それとも今出てるものが煮詰まった結果ですか。まずお尋ねします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

現在、公共施設再編検討委員会の中でこの公共施設の再編というのを検討しております。今後、今、パブリックコメントを実施しているという状況でございまして、このパブリックコメントを経まして委員会として成案化してまいります。それを町長のほうに答申をした上で、最終的に町として方針を決定していくという流れになっております。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

では、パブリックコメントの後にちゃんと正式なものを出されるということは、パブリックコメントの後に変わる可能性があるかと理解していいですか。普通パブリックコメントを受けて変わるということはまず考えられないんですけど、そのぐらいの余裕をもって、今、パブリックコメントを求めているんですか。お尋ねします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

現在、パブリックコメント中ということでございますので、今、意見をいただいているというところがございますので、どういう意見が出てくるのかによっても変わってくるかとは思いますが、基本的にはそのパブリックコメントの状況を見ながら検討してまいりたいという状況でございます。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

もう一つ私が納得できないものがあるんですね。というのは同じく5ページですね。所信表明の5ページにこう書いてあるんですね。「次に行財政改革でございます。」。町長の所信表明です。「特に持続可能な財政の改革は急務であります。新たな箱物の建設は抑制し、持続可能な公共施設の再配置をするための総合的なまちづくりの計画を策定いたします。」と。要するに新たな箱物の建設は抑制するために総合的なまちづくり計画を策定いたしますと書いてるんです。この、要するに今のパブリックコメントを求めているものとこれとの関係がもう一つ分からない。町長、副町長、どちらかお答えください。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

ありがとうございます。先ほどのものも公共施設を潰す、その一言だけ、それから今回のところも箱物を抑制というところだけを御注目されていると思いますけれども、まず私が所信表明のところに、第4次総合計画2011年から2020年までの総合計画の中に、確かに道の駅という部分の1行がございました。その段階というのは目標人口を2万規模としてされていたものであるとか、土地利用構想について自然の保全であるとか、そういう部分がございます。大きく時代が変わり、これからの豊能町のことを考えて総合まちづくり計画の中には今の人口規模に合った1万6,000人の維持であるとか、それから公共施設の土地利用の緩和であるとか、そういうところも新たに入れさせていただいて、持続可能なものをしていきましょう。箱物という部分に関してはもちろん抑制をしていかないといけない。抑制というのは何かというと、自らの身の丈に合った内容で進めていけるようなことを総合的に考えていかないといけない。その中には施設の集約化であるとか、建設したほうが財政的に負担軽減がなされるのか。そういう部分も含めて今回の中では集約をするというところがございますので、単にその1点だけ、箱ものの抑制または潰すとかということではなくて、総合的な判断が加わると。それも住民の皆さんそれから有識者も含めて、そして庁内で十分検討した上で今回の提案をしてるところでございますので、どうぞ御理解をいただきたいと思います。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

総合的なまちづくり計画ですね。この名前の資料なり計画書なりはいつ出してくださいですか。それを見させていただきまして、町長のおっしゃってる新たな箱物の建設は抑制し、持続可能な公共施設の再配置をする、そういうふうな流れになってるかどうか改めて検討させていただきますので、この総合的なまちづくり計画を策定しますというこの文言ですね。これに対してはいつこれを提示されようとしてるのかだけお尋ねいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

もう既に令和4年からスタートをさせていただいておりますけれども、総合まちづくり計画という形でもう中に入れさせていただいている、令和4年からスタートしているというところでございます。

○議長（管野英美子君）

秋元美智子議員。

○10番（秋元美智子君）

当時、今言いましたこのまちづくり計画を策定する前ですわ。ここにあります総合的なまちづくり計画とどう違うんですかと聞いてます。違うんですと。これは当時の部長がお答えになってます。ですからこの豊能町総合まちづくり計画と、総合的なが入っただけで違うものが出てくるんだなという認識を私は持たせていただきました。つまりこの中、今、町長がおっしゃいました、この中に新たな箱物の建設は抑制し持続可能な公共施設の再配置をするための総合まちづくり計画という新たな面を持ってるというような認識ですか。それでよろしいかどうかお尋ねします。

○議長（管野英美子君）

これは答えてください。

答弁を求めます。

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

総合まちづくり計画というのは将来のビジョンを示したもので、何が違うのかというと、第4次までというのは法律の根拠に基づくもので、それを作る。ですから多分、違うという部分に関しては、法律の基準が義務、という状態のところの中で示しているもので、全体の作り方というのは第4次の総合計画をもとに、変えなければいけないところ、そして継続させないといけないところ、それらを十分に検討した中で将来ビジョンをこの中に入れてるところでございまして、秋元議員の認識とは大分違うと思います。

○議長（管野英美子君）

以上で、秋元美智子議員の一般質問を終わります。

この際、暫時休憩いたします。再開は13時10分といたします。

（午後0時21分 休憩）

（午後1時10分 再開）

○議長（管野英美子君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、才協明美議員を指名いたします。

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

2番・大阪維新の会、才協明美です。議長から御指名をいただきましたので、通告どおり質問をさせていただきますので、関係者の皆様には丁寧な御答弁をお願いいたします。

まず農業支援対策についてですが、新規就農者育成総合対策として、国は令和4年度に約207億円の当初予算を組んでいます。対策のポイントは農業への一層の呼び込みと、定着を図るため、経営発展のための機

械・施設等の導入を、地方と連携して親元就農も含めて支援するとともに、伴走機械等による研修向け農場の整備、新規就農者への技術サポート、職業としての農業の魅力の発信等の取組に支援します。事業目標、対象は40歳代以下の農業従事者の拡大、令和5年までとなっています。これらは本町でも青年就農交付事業や就農支援塾事業、新規就農促進安定支援事業などに充てられています。先日ですが、豊能就農支援塾に2回ほどお邪魔させていただきました。今、6期生と卒塾された方13人ほど参加者がいて、農園では出荷時の効率を図るため1時間にどれくらい野菜をきれいに袋詰めできるか、どの時点で野菜についている土を落とすのかを実践され、座学では栽培中の管理作業、収穫・出荷時の対応、経費は幾らぐらいなのか、売上げはどれくらいかかるのか、皆さん熱心に勉強されていました。就農支援塾の取組に一抹の感銘を受けました。そこで質問です。来年度もこの就農支援塾を続投するのか、そして卒塾後の支援対策をどう考えておられるのかお聞かせください。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

お答えいたします。

2点ほど御質問あったと思いますけども、来年度の支援塾の体制どうするのか。もう一つは卒塾後の支援対策の関係ですね。1点目は来年度予算にはなりますので、都市建設部としては今年度と同様、来年度も継続するように予算要望のほうはさせていたきたいと考えております。それから2点目のほうですけども、本町が行っておりますその新規就農支援者に関する支援事業については大きく三つありまして、一つ目が

新規就農促進安定事業補助金、二つ目がパイプハウス設置事業補助金、三つ目が有害鳥獣被害防護柵補助金の支援事業があります。一点目の新規就農促進安定事業補助金ですけども、こちらのほうは農業を始めるにはまず農業機械を購入するなど初期投資が、議員おっしゃっていただいたようにかかってはくと思いますので、その補助金としてその農業の生産性向上とか農業経営の安定化を図るという目的で、農業機械を新規に購入する方に対してその経費の一部を補助するというものでございます。対象経費の50%以内で、財政事情もありまして金額は少ないですけども上限額30万円ということで補助をしております。二つ目がパイプハウス設置事業補助金です。こちらのほうは農産物の生産安定化、品質の向上を図るためということで、パイプハウス、ビニールハウスですね。その設置の費用の一部を補助するというものでございまして、対象経費の30%これも財政事情で金額低いんですけども、上限額は40万円ということになっております。三つ目の有害鳥獣の防護策の補助金については、その有害鳥獣被害を防止するための電柵、ネット、そういったものの購入に要する費用ということで、対象経費の50%以内で上限10万円となっております。

以上です。

○議長（管野英美子君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

農業を営んでおりましても、人件費というのは出ませんので、少しでも補助していただいたらうれしいと思います。12月3日の訪問したときには、13人ほどのうち豊能町に住みたい、すぐにでも移住したいという方が7人おられました。しかし担当者の方は空き家がない、ないんです、才脇さん

どっかないですか。いや何で、豊能町1,000軒もあるのにないんですねという話なんです。が、豊能町内に空き家は970戸から1,000戸ほどあるというのに、なぜ探せないのでしょうか。それは都市建設課じゃないのか、まちづくりなのか。そしてまちづくりであれば住宅流通多様化促進事業というのをしています。自治会に依頼して1件当たりピックアップしたら3,000円ということも聞いています。それ以降どうなっておられるかお聞かせ願えますか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

空き家対策についてでございますが、今年度に入りまして新たにNPO法と協定を結び、空き家対策に取り組んでいただくというところを行っていただいているところでございます。空き家が900軒、1,000近くあるうちの、空き家を手放したい方がいらっしゃるかどうかという辺りを自治会と一緒に町政懇談会でもいろいろお伺いしたのですが、進めていくというところを今年度の目標にしているわけですが、進捗は非常に思わしくないというところが現状でございます。今後はNPO法が二つになりましたので、その二つと一緒に取り組んでいけるところを考えていきたいと、このように考えております。

○議長（管野英美子君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

この7人が座学の中で、7人が手を挙げて豊能町に住みたいって言うことは報告は上がってるんでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

お答えいたします。

ちょっと私のほうには、耳のほうには入っておりません。

○議長（管野英美子君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

これはとても重要なことだと思うんです。豊能町に住みたいって言う方が7人もいて。この財政状況の中で7人が住みたいって言っているのにも関わらず何の報告もされていないというのは、「これいかに」の話になると思うんですが。これからもその辺、行政のその中はこの声があったということ、こういう大事なことをしっかり報告をしてほしいと思います。せっかく縁があって我が町で農家の資格を1年間かけてとったのにも関わらず、ほかの市町村にとられるというか奪われるというか、行かれてしまうというのはとても残念なことだと思いますか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

ありがとうございます。これまでも就農支援塾という形で、農家の担い手づくりということをしてしっかりと取り組んできました。その中で7人という方が今でもすぐに住みたいというお言葉があったというところは、私もまだ途中ですので聞いておりませんけれども、一番我々のところとして一番必要なのは、この豊能町で就農できるいわゆる土地利用、農地が借りれるかというところがこれまでも一番の課題になって、そのマッチングをしっかりとってきているというところでございます。ちょっとこれは間違ってるかも分かりませんが、その

方々というのは就農される、いわゆる農地の近くのところ、農家さんでいくと農地農機具を置かれるいわゆる倉庫であるとか、そういうところと隣接の御要望も非常にありますし、私は一番最初、ちょっと話が触れますけれども、希望ヶ丘含めてたくさんの住宅地があるからそういうところを推奨したらどうだ、通勤と同じような考え方でできないかというのも提案をさせていただきましたけれども、その農地の近くにとというのが非常に強いということも聞いておりました。ですので今後、その農地の借用と含めて住宅については本当に必要なものだと思っておりますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

○議長（管野英美子君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

町長、お言葉を返すようですがこれは12月3日の話で、東ときわ台でもいい、新光風台でもいいっておっしゃってる方です。豊能町でしたら車で通うからいいと。そしてまた、今、農地は割と簡単に借りれるというか、住宅空き家よりも借りやすいそうです。そして倉庫は居抜き倉庫を探しておられます。ですから農村、就農支援塾の方が古民家に住みたい、農村に住みたいというのはちょっとハードルが高過ぎるというのを、もう6期ですから、6年されてますからその情報は入ってます。だから希望ヶ丘でもいい、ときわ台でもいい、遠くて新光風台でもいいとおっしゃっておいしたので、それは一番近々の情報です。

○議長（管野英美子君）

質問を続けてください。

○2番（才脇明美君）

次は農業機械の問題です。農業機械コストがかかり過ぎています。だから農家の跡継ぎも二の足を踏んでおります。これは以

前から委員会でもやかましいほど言っております。しょうがないことかもしれませんが、ちょっと提案なんです、過剰な投資を避けて農業経営ができるように、個別農家が所有する機械を、貸出しに関する規定を作って利用できるような体制にはできないでしょうか。いろいろ調べましたらえらい遠いところ、東北や北海道にはこういうレンタル業者があります、大型機械の。それどうやって運ぶのの問題で、運ぶのは御自分で運んでくださいということで、それはもうとても大変なことだと思います。これから私たちの子どもたちの、役場の方で農家の方もおられます。自分が退職したら農業をしたいんだけど、やっぱり機械が大変だという、本当にこれは生の声です。それで農家、個人が保有する農業機械をちゃんとした形でレンタルできるようなことを考えていただきたいと思うんですがいかがでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

お答えいたします。

現在の農業についてなんですが、議員御指摘の貸出しの規定はできないかということで、農家さん、農家単位でそれぞれ借りていくというような体制をお話しされてると思いますけども、そういった場合、コスト面も含めて、今現在問題となっているのは高齢化とか後継者不足、そういったものの問題もあります。そういったものの解決策の一つで、国のほうでは集落営農を推し進めているということで、これは先ほどお話ししました農家単位で各作業を行うというよりも、その農業の一部あるいは全部を集落単位、例えば法人化のようなもので実施しまして、効率的に農業を進めていくと

いうものでございます。この集落営農に実施することで構成員の能力、体力、そういったものを適切に役割を分担することもできますし、例えば高齢で力仕事に難しい農家さんを若者がサポートしたり、経験の浅い農家さんを経験豊富な農家さんがサポートする、そういったものがあります。そういったものでその集落営農が結構メリットがあるというところなんですけども、本町においては牧地区で今回の圃場整備の事業を契機に合同会社を立ち上げまして、この集落営農に取り組んでいこうと考えております。高山地区でもこの集落営農に、そういったものに視野を入れまして今後の営農を検討していこうということで考えております。この集落営農に活用できる関連の国の支援もありまして、例えば農地の集積とか集約化に取り組む地域に対して地域集積協力金といった補助金とか、あと中山間地域の直接支払交付金、そういったものがございまして、本町においてもこのような国の補助金も活用しながら、農業用の機械の共同利用に活かしていこうと考えておるところでございます。

○議長（管野英美子君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

機械のレンタルの話なんですけど、それが集落営農で借りろってことです。これからは農業のことは続けて質問させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

次、スマートシティ関連についてです。町内においてスマートフォンの通信障害が住民のほうから苦情が届いております。これはスマートシティを推進するに当たって明るみに出たというのか、今、いろいろ連絡があります。通信障害のたびに携帯電話事業者に連絡はするが、電波障害はないと言

われるということです。豊能町はどこまでこの状況を把握されているというのか、本当に通信障害があるのです。それがないと言われる。どこまで把握されてるかお願いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

スマートフォンなどの携帯電話では基地局から電波を受信して通信を可能にしているということでございますが、電波の特性上、基地局との距離が離れている場合や、地下、建物の中など電波が届きづらい場所があるということは把握しています。

○議長（管野英美子君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

ごめんなさい。これは外の話ですから。屋外です。外の話で電波が届かないという。Jアラートが鳴らなかったとか、それは大円付近なんですけど。切畑付近ではたまたま電波が届いて、そういうのが出ると私に見せにきました。どうしたらいいんですかね。これは多分受信かな。携帯の会社に言っても電波障害なしと言われる。そしてスマートシティを推進するのであればその状況を、環境を整えたらいいのではないかとということです。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

ちょっと状況がどこまで把握できているかというのはございますけれども、一般論として少し申し上げさせていただきたいと思います。先ほど才脇議員のほうからありましたけど、大きな通信障害とかあった場合のことでございますけれども、例えば7月

にKDDIが大幅な、2日ぐらいですかね、通信障害が発生したというときに、例えば総務省、これは電波の管理、免許を所管している総務省になりますけれども、こちらのほうがNTTドコモであるとかソフトバンクであるとか、KDDI以外の通信業者、楽天モバイルに対しても緊急点検を要請したという事例もございます。基本的には通信障害というのは、これは当然携帯の会社が当然責任を持って行っていくという大前提もありますけれども、その所管をしております、この豊能町を管轄するということになってくるのかなというふうに考えております。

○議長（管野英美子君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

私の認識が間違ってるかも分かりませんが、スマートシティを推進するに当たってるのであれば、その環境を整えな駄目じゃないのかなという認識で質問させていただいたわけです。これは結構です。そして、先日、10月19日と11月24日、西地区にてスマートシティフェスティバルがありました。参加させていただきました。会場ではテーマごとに取組、いろいろな取組を説明されていました。それで西地区のオンデマンドバス、東地区のオンデマンドバス、バスですね。これは会社が違うんですけど二つの会社とちょっとお話ししましたら、10月19日、1回目のときは、私が感じたのは、全然豊能町わかってないなと。特に東地区のことなんて全然わかってない。西地区の、ここからこの停留所まで歩いてくるんですよと言ったら、ああそう思います、思いますという感じでした。そして東地区の担当の方は全くわからへんから、私が車で案内しました。時間も限られてましたので、た

った1時間しかありませんでしたので、寺田、牧、野間口で、吉川から帰ってきたんですけどね。そのときに、停留所はこまどおりてこな駄目なんですよって言いましたら担当の方はびっくりして、こんなの無理ですよと。無理でしょうと。来てよかったですとおっしゃってくれました。そしてスマートシティはどんどん進化していく。要望を聞いてくれると聞いています。そして町内だけでは駄目なんですと。広域で、広域を走ってほしい。さっき寺脇さんが言ったように、茨木、箕面も行ってほしい。高山でしたら箕面がおりていきます。広域で走ってほしいと訴えましたら、できますよと。役場の方と相談してください。何ぼでも変えていきます。スマートシティは進化するんですよと言ってくれました。期待しております。そしてそのバスの件は期待します。この以前に京都で、「地域×Tech京都」（みやこめっせ）で展示会がありました。それに行ってみましたら、いろいろな出店があつたりセミナーをちょっと二つほど傍聴したんですけど、あまりに大勢過ぎてちょっと覚えてないんですけど、一つだけ気になったのが、ミノルタの会社でKOTOBALっていう、多言語対応する無人のですね、その機械があつて、これはいいなと。大阪のおばちゃんみたいに、これ何ぼって聞いたんです、月。そしてたら4万円と。ランニングコストが。イニシャルコストはそんなびっくりするような値段じゃなかったで。ちょっと忘れちゃったけど。まちづくり課はこのスマートシティの企業、大名買いされてませんかというのが心配なんです。いろいろな、私たち買物するときに、やっぱり大きな買物するときは相見積りしますよね、あっちこっちで。そういうふうにして絶対にそういう多言語、30の言語が対応できるのが、たった月40万円、よ

そで聞いたら12万円ほど。いろいろなところがありました。これはこういうスマートシティでも相見積りをとらなあかんのん違うかなと感じました。いかがでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

二つ御質問いただいてるのかなと思います。一つ目の、フェスティバルのときに交通関係の業者の方といろいろお話をされたということで、広域でどんどんできますよ、これは企業の営業だったのかなと思うんですけれども、まちづくりはもちろん、交通というのは考えていくのに1番大事なところだと思いますので、東地区については今おっしゃられたとおり、非常に利便性が悪いということもありますので、取り組んでいかなければいけないと思いますし、その企業の方がどういう意味で高山まで行きますとかということをおっしゃられたのかなと思いながら、ちょっとお伺いしてたんですけれども、いろいろな形で民間の方とお話を交わしながら、町に即した事業展開ができるようであれば使っていくとか、民間の力を使っていくというふうにしていきたいなと思いました。

それから多言語のという、そういうような、まちづくりの中では観光に使えるのかなというふうに伺ったんですけれども、多言語でいろいろな言葉に変えることができるデジタルを使った取組、観光に生かせるのかなと思いながら聞いてはいたんですけれども、今後、公民連携デスクを設置するという方向で進めていきますので、スマートシティのみではなくて、多岐にわたる分野での公民連携を取り組んでまいりますので、そのときにはいただきました御意見というのは活かしていけるようにしてまいり

たいと思います。

○議長（管野英美子君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

いやいや、松本さん、スマートシティは進化するって聞いてますよ。何で高山まで行くんかなって、そんなの高山まで行ってもらわな困るんじゃないですか。去年の11月にキックオフしたときは、ぱっと目にしたのが進化しますと。住民の意見を聞きます。それが広域では駄目なの。それは商売やと、今おっしゃいましたよね。もちろん商売です。ただで行けって言ってません。200円で行けって言ってませんよ。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

少し語弊があったかもしれませんが、企業が持ってくるのはパッケージです。豊能町オリジナルではありません。企業が持ってくるパッケージを豊能町のサービスにするにはオリジナルに変えて進めていかないと、ということがございますので、デジタルは進化していくと思います。その進化していく中で町の中で取り入れていけるものは豊能町のサービスの、住民サービスの向上につなげていけるような形に変えて進めていきたいと、そのように思っております。

○議長（管野英美子君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

先ほども言いましたけど、スマートシティは進化していく。どんどん住民の話を聞いて、それに沿って変わっていくと言いましたから私は頑張って応援しております。それがなかったら意味がないと思います。それは以上です。

次です。太陽光発電設備の現状について

お伺いします。日本における再生可能エネルギーの主力である太陽光発電は2012年に固定価格買取制度F I Tが導入されて以降、急に増えてまいりました。この太陽光パネルは製品寿命が25年から30年とされています。そのためそのF I T開始後に始まった太陽光発電事業は2040年頃には終了し、その際、太陽光パネルを含む廃棄物が出るのが予想されます。町内の太陽光発電設備を設置している事業者は何社か。また、事業者は、町の条例に基づいた維持管理をしているのかと考えますが、現状をお聞きたいします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

大西住民部長。

○住民部長（大西隆樹君）

町内における太陽光パネル事業者につきましては、経済産業省への設置申請が11社より提出されております。実際に設置稼働している事業者は9社あります。この9社から豊能町太陽光発電施設の設置及び管理に関する条例に基づく維持管理報告書が提出されているところでございます。毎年4月に文書を送付し、6月末までに維持管理の報告書の提出を依頼しているところでございます。

○議長（管野英美子君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

ではちゃんと報告をされているんですね。それはわかりました。

条例改正以前に設置された太陽光発電のものは、遡及して条例に基づいて管理されるのでしょうか。

○議長（管野英美子君）

条例制定ですね。

○2番（才協明美君）

はい。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

大西住民部長。

○住民部長（大西隆樹君）

まず問題なく条例どおり管理できているかということなんですけども、令和元年の10月に町条例が施行されておりますので、令和2年から報告書の提出を求めているところですが、これまでのところ、最初、当初、若干提出が遅れた事業者もありましたけれども、現在大きな問題なく条例が運用できているものと考えております。さらに現在の事業者全てが条例施行前からの設置者であります、施行後に関わらず、施行前後に関わらず、定期点検の結果それから雨水排水施設、のり面、太陽光パネルの下等の各維持管理、撤去費用の確保の状況を等を全員に求めているところでございます。

○議長（管野英美子君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

以前に設置された分も条例施行前後に関わらず問題ないということですのでよろしいですね。太陽光発電事業は長期的に行われる事業で、様々な事業者が取り組みやすく、なおかつ事業の途中で事業主体が変更されることが比較的多くあるということを聞いております。そして太陽光パネルの種類によって異なる有害物質が含まれているということを踏まえ、置き去りや不法投棄といった太陽光パネルが適切に廃棄されないのではないのではないかという心配があり、懸念しております。将来大量廃棄がめぐってくると思われますので、今後もまたしつこく聞いていきますのでよろしくお願いいたします。

○議長（管野英美子君）

今は答弁要りませんか。

○2番（才協明美君）

お願いします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

大西住民部長。

○住民部長（大西隆樹君）

廃棄等の費用についてかということかと思うんですけども、法改正により積立制度が国のほうでは創設されています。積立では調達期間終了前の10年とされており、原則、調達価格からの源泉徴収ということになります。現在町内で稼働している事業者のうち、積立でが開始される最も早い事業者は23年の11月からとなる予定です。パネルの廃棄は事業者がその責任を負うことを前提に設立、積立制度が創設されておりますが、基本的にはこの積立費用をもって廃棄処理をいただくこととなります。仮に事業者がパネルの廃棄をしないまま行方不明になった場合、それから所定の手続を経てなどは、所定の手続を経て最終的には積立費用を使い行政代執行を行うことが想定されます。置き去りという事態も懸念されるころではありますが、そういったことが発生しないよう毎年の維持管理報告のチェックや事業終了時期も見据え、しっかりと監視してまいりたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

太陽光パネルはずっと見ていきたいと思えます。

次の質問です。財政についてです。皆さん財政、財政、財政で言い尽くされたと思いますけど、私からもちょっと言わせていただきます。令和3年度の地方交付税が3億円増額され、経常収支比率は90.5%、先ほども何度も何度も90.5%と聞いております。改善されたように見えますが、これは国の依存財源の結果であり、国からの地方

交付税が減額であった場合は経常収支比率が悪化すると認識しています。財政調整基金も取崩しは変わらない。現在では10億円を切って、先ほど9億3,900万円とおっしゃってございました。令和6年・7年には予算編成が厳しい状況ではないのでしょうか。

お聞きいたします。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

議員がおっしゃるとおり、令和3年度の経常収支比率は前年度の99.8%から90.5%へと9.3ポイント改善されました。これの主な要因は歳入面において普通交付税の増額などにより、経常一般財源などの額が約3億4,800万円の増額となったこと、歳出面におきましては退職金を含む人件費の額が約1億3,000万円の減額となったことが大きな要因となっております。しかし依然として町税の減収傾向が続くなど、本町の財政状況は非常に厳しい状況となっております。財政調整基金残高につきましては平成29年度から減少傾向にあり、令和4年度12月補正予算後では約9億3,900万円となります。このままのペースで財政調整基金の取崩しが続きますと、令和6年度、7年度の当初予算編成は厳しい状況が予想されるころです。

○議長（管野英美子君）

才協明美議員。

○2番（才協明美君）

厳しい状況になったらどうなるんですか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

例えば仮に財政調整基金がなくなってしまう、いわゆるゼロになってしまった場合

については、基金の取崩しにより予算が編成できない状況になります。ということは今現在の予算規模における予算というのは編成できないという状況になると考えております。

○議長（管野英美子君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

具体的にどうなるんですか。具体的に住民は。具体的にこの豊能町全体はどうなるんですか。例えば。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

町の行う事業には、法律により義務化されているもの、例えば扶助費であるとかそういった事業がございます。あと公債費等につきましては、既に行っております地方債の償還でありますので、義務的経費として償還をする必要がございます。そういった金額を除いて残りが町の施策による、町の独自施策といいますか、町の単独による施策となります。例えば公共施設の維持もそうですし、そういったほかの行政サービス、先ほどから出ております、例えば地域公共交通もそうですし、そういったほかのサービス、そのサービスのいずれかを削った上で最終的に予算を組む必要があるかと思っておりますので、住民の方々への行政サービスに対する影響が出てくるものであると認識しております。

○議長（管野英美子君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

大変なことになるんですね、このままであれば。これまで議員の皆さんの質問でも財政破綻、財政破綻、財政枯渇、そればかり危惧された質問が多くありました。も

ちろんお金のことを指摘するのが私たちの仕事です。しかしなぜ今まで放置されてきたのでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

豊能町の財政運営がかなり厳しい状況であることは先ほど申し上げたとおりです。ただ、放置してきたわけではなく、財政の健全化に向けては現在取り組んでおります行財政改革プラン2019を初め、過去からも行政改革を行ってきました。経常経費におきましてもシーリングの実施等、経費の削減に努めてまいりました。しかし人口急増期に建築した公共施設の老朽化に伴う大規模修繕や施設の維持管理を含めた運営費用などが現在財政上の負担となっております。この状況を改善するためには、施設の再編や事業の廃止など住民生活に多大な御負担を及ぼさざるを得ないため、一足飛びにはできない事情もあるところでございます。公共施設の再編については、現在、再編検討委員会による議論を踏まえた上でタウニングの実施など、広く住民の意見も求めた上で、現在の町の財政状況を丁寧に説明し進めていく必要があると考えています。

○議長（管野英美子君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

夕張ショックや、また国の強い関与による財政健全化団体となれば、これは皆さん、皆さんはもう部長クラスであと何年かで退職されると思いますが、若い職員おられますよね。これから子育て、今してる職員。そういった方々のお給料など、そういったことはどうなる。住民が一番ですよ。住民サービスが一番ですけど、そういったこと

はどのようなんですか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

先ほど夕張市の事例を出されておりましたが、夕張市においても今現在、令和3年度決算に基づく健全化判断比率、資金不足比率の中で唯一財政再生団体として認定をされております。夕張市の状況も住民サービスの削減はもちろん、人件費の削減が行われている。町の財政状況が厳しくなり予算編成ができない状態となってしまうと、そのような状況になってしまうと考えております。私どもとしてもそういった状況に陥らないように、現在予算編成を含め公共施設の再編など、持続可能な町の財政運営に向けて取り組んでいっているところでございます。

○議長（管野英美子君）

才脇明美議員。

○2番（才脇明美君）

質問を終わります。

○議長（管野英美子君）

以上で、才脇明美議員の一般質問を終わります。

議場換気のため、暫時休憩いたします。

再開は14時10分といたします。

（午後1時56分 休憩）

（午後2時10分 再開）

○議長（管野英美子君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、永並啓議員を指名いたします。

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

8番・永並啓です。それでは一般質問をさせていただきますと思います。

まず最初に、町長、体調が戻られて何よりです。ただ、一職員であればこれで済む

わけなんです、豊能のトップである町長なので幾つか指摘しておきたいと思います。病気だから仕方ないという側面はありますが、がんなどの病でない限りやはり健康管理もトップの重要な一つの仕事だと思っております。1年のうちに2回も体調不良で議会を欠席されるということは、多分日本初かなというふうに考えてます。町長のポジションは相当なプレッシャーだと思います。豊能町のような小さな自治体であっても住民の皆さんから集めた税金の使い道を決める権限は町長にしかございません。この中で、もし副町長や部長が欠席したとしても日程は変更はしないんです。当然議長が休んでも変更しません。我々議員が休んでも変更しないんです。町長だけが、休まれたら、意思決定とか新規事業のことを聞かないといけないので日程変更して一般質問を設けるわけですね。ただ、町長は、自治体のトップが議会を欠席するということが周りにどれだけの影響を与えているのかということ、何となくあんまり理解されていないのかなというふうに感じてしまいます。町長が欠席したことで議会の日程を再調整するために、まず、我々議会としてはすぐに議会運営委員会を開きました。住民サービスのために新たな意思決定を含まない委員会、条例改正などの議案は当初の日程どおり行いました。しかし、病状が全く分かりませんでしたので、診断が出てからということで一般質問等の日程については次の日、また議会運営委員会を行うということになりました。ただ、急遽連絡があって、次の日でも診断が出るか分からないということがありましたので、さらに次の日に延期になりました。診断が出て、2週間の入院になるけどもその後自宅療養ということも考えられるんでということで、12月会議のぎりぎりまで延ばそうということ

になり、この年末のどたばたの26、27日に、このように議員の一般質問の機会を設けているというのが事実であります。先週、議会としては広報委員会を行いました、一般質問抜き、半分の原稿を印刷屋さんに渡せないというような一般質問抜きの編集を行いました。年度当初に印刷屋さんにはかなりタイトなスケジュールでお願いするようなことになっております。議会だけでもこれだけの影響があるわけですね。全ての部署の職員、それに付随する外部の事業者、全ての方たちが日程変更などかなりの影響を受けています。それがトップにいる人の責任なんです、の重さです。さらに残念なのは、病気で入院してる場合、こちらからどうですかということは積極的に聞けません。当然議会としても聞いてません。それはなぜかというと、連絡ができる状態になったら連絡をしてもらえらるだろうと思ってますので、議会から連絡することはありませんでした。しかし町長は議会に連絡を入れることは一度もしないのに、御自身のフェイスブックを更新されました。そこで最後のほうについてのように議会への謝罪の一文がありました。それを見たときは本当に耳を疑いました。最近、メールやラインで仕事休みます、会社やめますっていう人もいますが、それはあくまでもアルバイトであつたり一従業員の話です。それもどちらかというと非常識な例として取り上げられています。そのときすぐに副町長を呼んで事情を聞き、そして投稿された内容にもうそ、事実と違うところがあったために削除してもらいました。やはりこういう行動を見ていると、御自身の立場、責任を理解されていないとしか私は思えません。いろいろなところに選挙の応援に行くのもいいでしょう。でもそれは町長としての仕事を全てこなした上での話です。維新の

会のおかげで町長になったんだとしても、町長になったからには最優先でこの豊能町のために働いていただきたい。もし町長がダイオキシン問題のために、解決のために毎日町内を走り回っている。議会が出した付帯決議に真摯に応えて、ちょっとでも前倒しして結論を出そうとしている。道の駅についても白紙撤回はしたけど、代替案をしっかりと出してそれを進めているというような状況であれば、議会からの問責なんて出ないんです。お願いしたいのは、僕のお願いは次の町長選挙には出馬せずに、まずは療養して万全の体制になるほど療養していただきたいということです。もし町長これでお考えが、感想があれば、通告にはごさいませんが一言いただけたらと思います。なかったらいい結構です。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

町長の責任というところのものは一番痛感をして、これまでも町民の皆さん、そして関係者の皆さん、それから職員の皆さん、一番は議員の皆さんとの二代表制のもとにこの町を作っていくというところに対して、しっかりと取り組んできたところです。その考え方はもちろん変わっておりませんけれども、今年度に入りまして本当に皆さんに御迷惑かけた今回の緊急入院というところと、それから3月議会のところですけども、これは発熱をしてしまったというところで、今回もそうですけれども、まさかコロナになったんじゃないかというようなところで、本当に心配をし、皆さんに全体に影響があることがあってはならぬということで発熱外来のほうにかからせていただきました。私の365日というのは町民の皆さんのためにということでしっかりと務め

させていただくというところ。先ほど議員の議会のほう、議長の方に連絡というところでもございましたけれども、診断結果が出てからということで、翌4日の段階では診断が出て、30日、2週間ということで、診察診断書を我々のほうの担当のところに送付をさせていただいたというところで、至らなかった点たくさんございます。しかし町民の皆さんの、そして豊能町をしっかりと後世につないでいくというところを考えながら、これまでもしていきました。その考え方含めてこれからも議会の皆さんとともに一緒になっていかないといけないと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

出処進退については機会があるところでおっしゃってましたんでこれから私の一般質問に入っていきたいと思います。

まずは教育問題についてお伺いいたします。まず先生の負担軽減についてお伺いしたいと思います。クラブ活動の外部委託であったり、給食費の徴収業務、保護者からの意見を聞く第三者機関の設置などを進めたらどうかとは考えておりますが、どうお考えでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

まずクラブ活動の指導の外部委託でございますが、これにつきましては今年、スポーツ庁では令和5年度以降の休日の運動部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の運動部の指導を望まない教員、教師が部活動の指導に従事しないこととする方

針を示しております。今年6月に有識者による運動部活動の地域移行に関する検討会議から提言がまとめられております。この中で、少子化と学校の働き方改革の観点から、持続可能な運動部活動について提言をされているところです。提言では令和5年度から令和7年度の3年間をめどに、休日の運動部活動から段階的に地域移行をすることを基本とされているところです。また文化系のクラブ活動についても文化庁の有識者会議でスポーツ系のクラブ活動と同様の提言がされているところでございます。本町といたしましても、このような提言を踏まえまして、教員の負担軽減のために外部の指導者の方にクラブ活動の指導を仰ぐとか、そういうことも検討していきたいと思っております。今、吉川中学校では外部のコーチ、これは一部でございますが、ボランティアのほうでやっていたような状況でございます。一部のクラブですがそのようなことも助けていただいているという状況にあります。このような取組の定着を今後図っていけるかどうかというのは今後の大きな課題でございます。やはり外部指導者の確保というのが非常に本町のような小さい規模では、活動者が少ない状況もありますので、そのような外部指導者の確保というのは大きな課題であります。また外部委託をするにしてもその費用負担をどうするのかというところも大きな検討課題になってきょうかなと思っておりますのでございます。

あと給食費の徴収委託業務につきましては、現在給食費は学校におきまして教材費や修学旅行の積立金といった学校徴収金を一括して口座振替により毎月保護者から徴収しているところでございます。当該業務は主に学校事務職員が行っている状況でございます。仮に長期にわたり納付が滞った

場合でございますが、その場合は学校の管理職やあるいは担任の先生方に面談等の際に聞き取りを行ったりすることもございますが、学校全体では数件程度そういう場合があると聞いておりますが、基本的には教員が徴収業務に携わっていることはないというような状況でございます。

あと、三つ目の、保護者からの意見を聞く第三者機関の設置等につきましては、今、東西両地区に学校運営協議会を立ち上げております。その中で御意見や御助言をいただき、今後の学校運営で教員の負担軽減に図れるような、つながるような御意見等もいただきまして、今後検討し教員の負担軽減に努めていきたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

これ、僕、15年ぐらい前から指摘しているんですよ。議員というのが力ないなというのはつくづく感じるんですけど、国から言われて動き出すではなくて、先生の負担が大きいというところは昔からわかってるんですね。いろいろと事件が起こると防犯体制をしっかりしないといけないっていうことで先生がいろいろな道具を持って不審者対策をしたりとか、でも私学とかは違うんですよ。警備員がつつりいるんですよ。そうしたら私学のほうはもっと先生が授業に専念しやすい環境を作ってくれてるわけですね。ただ、公立の学校というのはそういったものを全て先生に任せている傾向があるので、できるだけ先生とそういうそれ以外の業務というものを周りでサポートしていくということを以前から訴えているんですね。やはりそういうことによって先生がもっと子どもたちに向き合う時間、授業を教えることに集中できる時間を増やすっていうことがやはり学力を上げていくとこ

にもつながっていくんで、ぜひともそういったところからも、国から言われなくても豊能町の問題を見つけて、ビジョンというものは突拍子もないことを壮大に掲げることじゃないんですよ。それぞれのことの問題点をじゃあいかに将来にわたって考えたときに、これはこういうように解決したほうがこの地域にはいいよねっていうことをいろいろな部署で積み重ねていって、全ての豊能町のビジョンができるんです。それが今ないから豊能町はなかなかうまくいろいろ回ってないんですけど、そういったところからも私が指摘していることはいろいろと、教育問題かなり力を入れてやってきましたんで、将来的にはもっと先生の負担を軽減していくことが必要でしょうから、ぜひともそういう取組を行っていただきたいというふうに思っております。これについては今後期待するとしか言えないんですよ。ですからこれ答弁はもう結構なんで、その次に、外国から一時帰宅した世帯の子どもが、一時的に学校に通うための入学手続についてお伺いします。現在、一時的な入学であっても胸部X線を撮って提出することになっています。しかし、近隣の市だけでなく国においても今はレントゲン検査を求めているということでした。例えば衛生面に不安がある国とか等の帰国であればそういう細かな健康診断も必要かもしれませんが、先進国などそうではない国からの帰国であれば、そういうのを簡素化してもいいのではないかと思いますがいかがでしょうか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

すみません。先ほどちょっと1点だけ、発言の訂正というか補足をさせていただきます

たいと思います。先ほどこクラブ活動の地域移行の関係で、6月の提言のところでは令和5年度から3年間移行期間ということで申し上げましたが、最近の3年間の移行は基本的にはちょっと困難であるというような報道もされております。まだちょっと国等の通知はきておりませんが、3年間の中でというのはちょっと見直しが図られているという状況でございます。

それで御指摘の体験入学の件でございます。日本国外に在住している児童が長期休暇などを利用して日本に一時帰国、一時的に帰国され豊能町に居住する際、日本の学校の授業を体験を希望される場合がございます。本町におきましても町内の小学校に通うことを希望する場合、受入先の学校との条件が合えば体験入学をしていただいている状況でございます。この体験入学につきましては、国の制度としては存在はしておりませんので、受入れの学校の裁量によって実施がされている状況でございます。実施の手続としては、約1か月ほど前に教育委員会のほうへ、担当課、教育総務課のほうへお問合せをいただいて、その後、学校長との面談、面談の結果受入れが可能となれば体験入学に関しての確認書をお願いしたい。その際に御指摘の健康診断等も受けていただいている状況でございます。健康診断につきましては、ほかの団体にいろいろ対応は異なる場合もございますが、本町としては結核等の感染の心配もあることからお願いしている状況でございますが、特にX線の検査については受診を難色示される場合も多ございます。なのでその場合は医師との相談の上、ほかの方法で検査をしていただける方法も考えて対応していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

ちょうど9月前半に指摘して9月9日になかなか変わってなかったものが変わって、X線だけではなくて今はインターフェロンのγ遊離試験というものも加えられております。そういったものも周知していただけたらいいんですが、ただ、今、部長言われたように1か月前ということがホームページで堂々とうたわれてるんですね。昨日、永谷議員の質問で、小学校とか中学校のページになかなか行けないということを言われてましたけど、これだけすぐ行けるんですよ。豊能町体験入学と入れるとこの書類出てくるんですよ、すぐに。ほかの市町村でやってみたんですね。なかなか見つからないんです。見つからなかったら問合せしましょうかってなるんですけど、行政のほうから書類が1か月前までに出てくるんですね。そういうのを見ちゃうと、もう、短期間ではちょっとなかなか受け入れてもらえないなっていうような形で、問合せもすることなく諦める御家庭もあると思うんですね。やはりこれまでっていうものは豊能町においては特にこういった事例は少なかったでしょうし、ただ、今は海外との距離が非常に近くなってます。豊能町出身の方でも海外に住んでおられる方も結構おられます。豊能町は実際、高齢化を迎えています。例えば介護等で頻繁に帰ってこないといけないときがある。そういった場合に1か月前からっていうのは、それはあらかじめわかっていた休暇の場合しか通えないっていうことになりますよね。それでまたネット環境が普及した今、仕事の働き方というものも変わってきます。毎日通勤しなくてもネット環境さえあればどこへ行っても仕事ができるようになってるわけですね。様々な理由があって一時帰国した際に、短

期間でも子どもに教育を受けさせることができるのかどうかということは非常に重要な問題になってくるんですね。一時帰国したときに子どもが学校に行けなかったら、子どもは家にいることになるんですね。親の介護をしてる一方で子どもは家にじっとしている。中学生ぐらいになると1人で出歩くかもしれない。子どもの成長にとってどちらがいいか明らかですよ。学校に行ってみないと、いろいろな、ふだんは交流してない友達と交流するっていうほうが子どもの成長にとってもはるかにいいわけです。お願いしたいのは、他市町村でも行っているようなことは豊能町でもできるようにしてもらいたい。子どもにとって、手続的に云々の話の前に子どもにとってどちらがいいかという観点で考えて、そのためには何が弊害になっているのか。その弊害は手続的なものだったら取り除けるんじゃないか。そういった観点で考えていただきたいと思いますが、まず1か月前というふうにあそこに堂々と書いてるので、そこは例えば要相談とか、そういう方は1回連絡してみてくださいとか、何かその紙を見て親が躊躇しなくていいように、諦めなくていいように、そういった情報発信の仕方を考えていただきたいと思いますがいかがですか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

現在、ホームページ等で豊能町立小学校への体験入学についてということでホームページに現在掲載しておるところです。その中には1か月前に連絡をいただくというような内容としております。1か月の期間なんですけど、受け入れる際にはいろいろ

と学校の受入れ体制、手続等も準備が必要になってきます。具体的には受入れ児童の状況の聞き取りでありますとか、教科書の手配あるいは給食の発注、あるいは学校活動参加されてのけが等に対応するための保険の加入、あるいは行事等の調整、あるいは受入れ学級への担当教諭の打合せ等もございます。また受入れの家庭で保護者の方に御用意していただく等々のこともございますが、そのような期間も含めまして約1か月ということで設定させていただいております。これにつきましては基本1か月ですが、状況によっては短縮も図れるかもしれませんが、現在ホームページを、今、掲載しておる体験入学の規定に行き着く前のホームページのところで、手続に関しての疑問点や不明な点がございましたらお問合せをお気軽に御相談をしていただけるような表示もしていきたいと思っておりますので、そこでもし1か月についてちょっとお問合せがございましたら気軽にこちらの教育委員会の事務局の担当課まで連絡をしていただけるような御案内もしていきたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

いろいろ他市町村を調べると2週間から1か月が多いです。2週間のところも結構あります。ですからこういったところは学校の都合、手続上の問題もありますけど、そういうところこそスマートシティをうたってるのであればITを活用して、学校長の面談なんかはZoomでもよくしたりするとか、例えば1年に一度面談、最初の1回で面談をすればその後の帰ってくるときはもう初日の面談でいいとか、だからいろいろ考え方ってできると思うんですね。今は昔の考え方そのまま受け継いで、長期

の休暇、分かっている休暇で帰ってきたときに体験入学できますよってという感じなんです。でも社会状況ってどんどん変わっているんですね。仕事はもうそこに行かなくてもいいような状況になっている。家でもできるようになっている。一時帰国っていうのを頻繁にする人もいます。それで介護のために帰ってくるケースも出てきます。そういったことを社会実情に合わせて子どもにとって家にいるほうがいいのか、学校に行かせるほうがいいのかっていう観点から、今のある技術をフルに活用して対応していただきたいということなので、そこはもっと、ホームページにいろいろお問い合わせくださいということを書いていただただけでちょっとは違うかなと思いますので、ぜひとも柔軟に、その御家庭で事情は違ってくると思うので、話を聞いて対応していただけたらと思います。これ、そこに中学生はしてないんですよ。中学生ができない理由というのは何かあれば教えてください。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

現在受入れをしているのはおっしゃったように小学生だけということになっております。中学生で体験入学をしていないというのは、ちょっと今、はっきりとしたことはわからないんですが、恐らく中学生になりますとタイトな授業の関係でありますとかいうところで、小学校だけに限定しているかもしれませんが、その辺についてはまた確認して、もし可能であればそういうところも広げて一度議論はしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

やはり、特に英語なんていうのは中学校になるほうが英語の授業ってどんどん入ってきますよね。そういったときの交流って非常に重要だと思うんですよ。他市町村でやっているとあります。ありますんで豊能町でどういう事情でできてないのかわかりませんが、お願いしたいのは特に教育に関することは、対象者が少ないとか豊能町には人数が少ないから、子どもが少ないからってということで他市町村でできていることをできないってということだけを避けていただきたいんですね。ぜひとも、部長がおっしゃられた今後の検討に期待したいと思います。

それでは次の質問にきたいと思います。

東地域の小中一貫校、見直すのは複式学級が二つできたときとなっていますが、この複式学級というものを二つ、これ複式学級って本当にいいとお考えですか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

森田教育長。

○教育長（森田雅彦君）

今、御質問ありました永並議員さんの小中一貫校を見直す目安についてのお尋ねでございますが、令和2年8月12日の総合教育会議におきまして確認をされた内容の一つに、統合後は将来の子どもの数を検証し、複式学級が二つ発生するような状況になれば再度小中学校の在り方を検討する目安とするとされたところがございます。ただ、議員御指摘のように複式学級が本当にいいのかということにつきましては、1人の先生が一つの学年を受け持つ単式学級を維持することが望ましいというように考えております。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

そうだと思いますよ。複式学級って本当に、例えばもっと地方の、山陰であるとか地方の周りに学校がない、どうしてもしょうがない場合に複式学級というのは理解できます。でもそこでも今はI o Tいろいろな技術を使っていろいろなこと一緒に授業が受けれるような仮想空間みたいなものを作ってやろうとしてますよね。豊能町の場合は違うんですよ。20分行ったら普通の学校あるんですよ。だから言ってるんです。複式学級が一つでも生まれそうになったらそれはもうすぐにでも見直しをかけていく必要が僕はあると思いますよ。だって20分、西地域に行けばあるんだからということです。二つとかそういう、二つなんて言う場合じゃないと思います。一つでも複式学級になりそうだったらすぐに見直しをかけて1小1中の議論を進めていくというほうが現実的だし、子どもたちの教育にとってもいいと思いますけどいかがですか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

森田教育長。

○教育長（森田雅彦君）

複式学級より単式学級が望ましいということは先ほども御答弁させていただきました。それでそのときにいろいろと話が出た、議論があった際に、やはりそういうような複式学級が発生するような状況にならないようにみんなで取り組んでいく必要があるのではないかと。とりわけ子育て世代の皆さんをできるだけ転入いただけるような魅力あるまちづくり、そしてもう一つは魅力ある学校づくり、これをみんなで取り組んでいく必要があるだろうというようなことになったわけでございます。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

いや、それは分かってますよ。1小1中に賛成された方も条件として、人口増加策積極的に取り組むということ saying してますよね。でも結果がこうなんです。結果が伴ってないような状況です。具体的に、これやったら豊能町の東地域に住んでみたいな、みたいな施策って一個も出てこない状況なんです。だから僕はそっちをする、そっちが現実的になるよりもどっちかというと子どもの減少のほうが早いと考えてしまうので、そこにそういう、今、教育長がおっしゃられたような施策がどんどん出されてきて、若干でも人が増えてってますよ、だったらいいんですよ。でもそれが見えてこないから、それだったらもう1小1中の議論を、複式学級が一つでも生まれそうだったらしていくというほうが現実的じゃないですかということです。ですから増えなかったら、多分増えないと思いますよ、今のやり方だったら、何もしてないんだから。だから複式学級が一つでもできたら1小1中っていう議論をまた検討していただきたいということは、もう要望ですよ。またそういった議論を一つ頭に入れて進めていただけたらと思います。

次に町政全般のほうに入っていきますけれども、9月にマイナンバーカードの普及率にお伺いしました。今の状況、職員の状況と住民の皆さんの状況をお尋ねしたい。9月か10月ぐらいに総務大臣かな、マイナンバーカードの交付率によって補助金云々ということも言われてますよね。それだけ国はマイナンバーカードに力を入れてるということです。豊能町はどういう状況なのかまずお聞かせください。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

まず職員の状況についてお知らせいたします。若干古く、データが令和4年の9月末現在になりますが、豊能町の9月末現在の職員の取得率は53.6%となっております。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

大西住民部長。

○住民部長（大西隆樹君）

住民の方のマイナンバーカードの取得率ですけれども、国から送付されている数が11月末現在で1万2,260枚。住民への発行数が1万909枚となっております、率にしますとそれぞれ65.13%と57.95%となっております。また既に申請を済まされている方の数を合わせますと1万3,423枚となり、71.31%の方がマイナンバーカードを受け取ったまたは受取の意思がおりだということになります。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

9月にも言いましたけど、やはりそれを進めてしようとしてるのは国であり行政なんですよね。やはり職員の方っていうのはもっと積極的にもって行って、これこんな便利なんですよ、こういうことにも使えるんですよっていう職員自体が発信していく必要があると思いますよ。豊能町の皆さんはかなり熱心で70%という高い率かと思えますけども、職員の方は100%を目指していただきたい。これはもう要望ではありますが、そういったことでお願いしたいと思っています。

次に、これも久々にやるんですけど、豊能ミュージアム構想についてなんですけど、これは豊能町全体を美術館に見立てている

いろなところに作品を展示する、これも14、5年前に初めて言ったんですよ。豊能町って来てもらうものが何もないんですね。来たって家しかないから。ハイキングするっていったって妙見口から登っていただけなんですよ。光風台、ときわ台で降りる人ってほとんど住んでる人だけなんですよ。それで同時に学校のほうは、附属池田小学校での事件があってかなり閉鎖的になったんですね。それまではいろいろな人が学校に入ることもできたけどそれができなくなった。地域の人たちはそういう意味でいろいろな見守りとかで助けてますけど、それ以外の人は学校との距離がすごく遠くなったんですね。そういったことから、学校の子どもたちの作品なんかをいろいろな豊能町の道路とか、当然野ざらしじゃないですよ。そういう囲いを作ってそういうものの中に入れて展示するとか、スーパーの中に展示させてもらうとか、そういうふうに歩きながらそういう美術に触れ合う機会を設けたり、美術大学等と連携してそういう若手の作品なんかを展示させてもらうとか、豊能町の道路を使って卒業式典みたいなのをやってみるとか。要するに豊能町に遊びに来たい、面白いことをやってる町だっていうような感じで、豊能町の中に降りてもらわないと駄目なんです。そういう仕掛けをしてはどうかということなんです。これはもう教育委員会だけじゃないんです。総務も全部絡んでくるんです。これについてどうお考えかお聞かせください。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

坂田都市建設部長。

○都市建設部長（坂田朗夫君）

お答えいたします。

観光の観点からということでお答えさせていただきます。議員御提案の豊能ミュージ

アム構想についてなんですが、イメージとしては絵画とか彫刻、石像とかということなので、例えば2年に一度開催してます、のせでんアートラインというのがあります。それは著名な芸術家さんたちが沿線の各地域に作品を創作、展示していくもので、例えば豊能町では吉川の妙見口駅前周辺において、議員お話しあったとおり道路とか河川などをフィールドとして活用して、そういったときのイベントを期間限定でやってたというのがあったと思います。あといろいろ調べますと、大阪府内のまち全体がミュージアムといったそういう考え方の大阪ミュージアムといったものもありまして、その中には登録、豊能町のほうでも十数件登録があるということで、その中には豊能町の観光資源である街道石仏、あと花折街道とか初谷川の溪谷、そういったものがあるというところです。ただ本町の観光資源、例えば石仏、史跡等なんですけども、これらの観光資源がまだ現在ちょっと十分に活用されてるとは言い難い状況でありまして、観光協会と連携してQRコードを設けての案内板の設置とか、観光パンフレットの充実、ホームページの充実等々、まずその辺りを整理充実を図りまして、優先して観光振興に努めてまいりたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

入江こども未来部長。

○こども未来部長（入江太志君）

お答えいたします。

私のほうからは、先ほど御質問の内容をお聞きしておりまして、若干違う内容でまとめておるんですが、児童生徒の作品、今、各施設、あるいはスーパーとか、多分学校とか以外で展示をしていろいろ、町外の方の目を引けたらいいかなというような御質問内容だったかと思うんですけど、そうい

う枠組みを、例えば展示スペースを確保していただけるのであればそれはまた学校のほうから児童生徒さんのほうに、作品を展示していいかどうかとかいうことは可能かなと思ってます。中には大変優秀な生徒も多分あると思いますので、作品自体は見てほしいというような生徒も、児童生徒もいるかもしれませんので、それはそれでいいことかなと思っております。こちらのほうは、公民館のほうでは、今年、11月の第2土曜日・日曜日を利用しまして文化展を開催、そのような取組は可能かなというところではあったんですが、先ほどの御質問の内容からしましたらそういう展示スペースとかを設ければ、一定学校との協議の上、児童生徒の作品を展示することは可能かなという思いをいたしました。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

豊能町ってどういう人が多いかというと、大阪市内に通勤してる人多いんですよ。今言っているのは施設、どこかの施設でっていうのはどこでもやってますよ。借りて、地域の小学校の作品を展示したりとか。それで違うのは普通に歩いてる中で見れる。ただそれは屋外になるのでそういった難しいというハードルはあるんですけど、歩くことでそういう学校とつながれる。ふだん学校と関わらない人でもそういう作品を見れるっていうような場をいろいろなここに設けて、歩くだけでそういうことができたなら楽しいんじゃないかという観点なので、またそこら辺は検討していただけたらと思います。

次に、スマートシティですね。とよのんウォレットとか、全協のときも言ったんですけど、これだけは本当に、このまま続けていくのか、見直しされないのかということ

ころになると思います。というのは、ウォレットっていうのは楽天であったりいろいろな、ペイペイであったりメルペイであったりラインであったり、いろいろなところが電子ペイ、決済というものを取り組んでいます。その中でとよのんウォレット、誰が使うのかなというふうにどうしても思っちゃいますよ。実際僕、ほかのは使いますがとよのんウォレットは使ってませんからね。そういったところを考えると、やはりそういったところに民間企業に戦いを挑まなくても、民間企業がやらないところのサービスに特化していく必要があるんじゃないかと思いますがいかがですか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

とよのんウォレットについての御質問だと思いますが、今回、7月1日より運用しましたプレミアム付デジタル商品券事業につきましては、スマートサービスの一部として町内の消費喚起ですとかアプリの決済になれてもらうことや、短期的な地域経済の活性化などの課題を解決できるのではないかということを見込んでスタートしました。反省点としましては、独自のアプリでしましたところ、加盟店が非常に少なくて期待されてたスーパーが入っていなかったというような問合せもたくさんございまして、一部の方には混乱を招いたというところは反省点であります。今回、大きな企業が入ってなかったというところについては、府下全体でこれからデジタル商品券を取り組んでいきたいというような取り組みもあるようですので、そことの連携を進めながら進めていければよかったのかなという反省点でもございます。今後はポイントを付与するということに特化して何か進めて

いけないかなということや、コンシェルジュのほうを2月に更新する予定でございますので、調整を進めていきたいと、このように考えているところでございます。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

やはりこれスマートシティというのが、市町村で、ちっちゃい豊能町で手を挙げるというのがちょっと早々だったなというふうに非常に思ってます。やはりこれはスーパーの問題で全てを物語ってますよね。大きなスーパーが入ってくれない。つまりは豊能町のような小さな規模でやったとしても、これを大阪市とかでかいとこに持ったときに同じようになるかわからないから入ってくれないんですよ。社会実験にならないから。だから大都市がやって、大都市のスーパーでほとんどが使われるようになったら、それを地方の田舎のスーパーにもっていく、これ簡単なんです。でも豊能町でやったからといってこれが大都市に通用するかといったら通用しないかもしれない。だから企業が乗り気にならないんですよ。やはりそこを慎重に考えていかないと、いろいろな、アプリ、ITというのは非常に魅力があるものです。でもそれは大きな人数、AIに関しても大きな人数がいて、それを効率よくっていうものはAIは得意です。でも、豊能町のようにゼロのようなところ、そこから、交通もそうですけど何かを生み出すというところはやはり難しいのかなというふうに感じております。実際、大阪市の発行しているプレミアム商品券とか、あいうのも大阪市独自ではなく多分どこかの、レジオンペイかな、どこかに依頼をしてそこに登録みたいな感じになってます。自社でウォレットのアプリなんか持ってません。そのレジオンペイか

なにかは大阪府だけじゃなくていろいろな都道府県のキャンペーンの電子決済を賄ってます。そういったほうが絶対効率いいんですよ。大阪市がそっちなんですから。大阪府下が。なぜ豊能町だけがこんなちっちゃいところで、この狭い範囲で使えるようなアプリを開発して、そのランニングコストにこれから毎年かかっていきますよ。ですからそこら辺は乗っかりゃいいじゃないですか、大きなところに。大都市もそっちやってるんだから。ぜひともその見直しの際はそういったところを真剣に、本当にこれが維持可能なものかというのを判断していただきたいと思いますがいかがですか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

いろいろな反省点とか課題点というのは出てきているところでございますので、議員おっしゃいますとおり、今後いろいろなところを調整しつつ、何が一番いいかというのをチャレンジしながら進めていきたいと、このように考えております。

○議長（管野英美子君）

永並啓議員。

○8番（永並 啓君）

これも何度も言ってることなんですけど、やはり今はもうスマホ持ってる人たちに手厚いサービスをしてるようにはしか見えない。以前から、持っていない人でも情報端末、何かそういうのにアクセスできる端末を用意してくれと。だからこそ豊能町のようないろいろな人口世帯、高齢化が進んだ町でもスマートシティという取組をすればサービスが受けれるっていうことにつながっていくということ、前から言ってます。でも結局はスマホ持ってる人限定というような形

で、なかなか全戸にそういう端末を用意するということにはつながっていません。やはり、これイオンなんですけど、イオンがスマホを使ってレジをできるようにしてるんですね。これはスマホのアプリを持っていない人どうしてるか。入り口に置いてあるんですよ。スマホ持っていない人もそれを手に取れるんですよ。それでレジができるんです。言ってるように持っていない人にもちゃんとそれが使えるような環境を、イオンみたいな巨大企業ですからできるわけなんですけど、そういうようにして普及を図っていったるんですね。やはり自治体というものを使ってそういう実験をするのであれば、それぞれの世代が同様に情報にアクセスできるような環境をとというものは早急に作る必要はあると思います。どんどん広がっていきますよ、格差が。ですからそこら辺は前向きに検討していただけたらと思います。

次、最後ですけども、自治会カーシェアリング。そういうのを自治会の会で提案していただくということなんですけど、説明はされたのかどうかと、あと最初のやはり初期投資というものが必要なんですよ。そういったものはある程度行政のほうで見てということを考えてるんですがいかがかということですね。僕のしゃべる時間もうないのでちょっとだけ言っときますね。これ、A I オンデマンドバスは、今ほとんどバスが乗ってない中で何とか利用してもらおうという試みなんですね。この自治会カーシェアリングというものは、他市町村の田舎のようなところで、2、30世帯の中でもう運用されてるんです。結構ぴったりですよ。豊能町の小規模のところで運用できて実績があるんですよ、いろいろなところで。ですから、他市町村の事例、関係ないところもってきてもなかなか入らないかも

しれないですけど、これって本当に三陸、東北のほうで行われていることなんで、そういった事例を、豊能町に似たような事例で進んだことをしているというところをもっと取り入れていただきたいと思います、まとめて総務部長いかがですか。

○議長（管野英美子君）

答弁を求めます。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

自治会カーシェアリングの自治会への案内のタイミングは、行政連絡協議員会議の際になると考えております。今現在はまだ行われておりませんのでまだ今現在は説明はしておりません。今後の会議の際に説明する予定をしております。現時点では行政としてのサポート、補助については考えておりませんが、引き続き交通対策だけではなく地域の活性化にも寄与できる活動であると認識しておりますので、検討はしたいと考えております。

○議長（管野英美子君）

以上で、永並啓議員の一般質問を終わります。

以上で一般質問を終わります。

議場換気のため、10分間休憩いたします。

再開は15時10分といたします。

（午後 3 時 01 分 休憩）

（午後 3 時 10 分 再開）

○議長（管野英美子君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第 2 「第 5 号議会議案 豊能町議会特別委員会設置の件」を議題といたします。

提出者の説明を求めます。

永並啓議員。

○副議長（永並 啓君）

8 番・永並啓です。

第 5 号議会議案、豊能町議会特別委員会設置の件について説明させていただきます。

豊能町議会委員会条例第 5 条の規定に基づき、本町議会に交通特別委員会を設置することにつき、議会の議決を求める。

令和 4 年 12 月 27 日提出。

提出者、豊能町議会議員、永並啓。賛成者、同、才脇明美。

名称、豊能町議会交通特別委員会。

付託事件、1. 阪急バス・阪急電車・能勢電車への陳情・要望について。2. 西地区 A I オンデマンド交通の実証実験と実装について。3. 東地区デマンドタクシーの利便性向上について。

構成人員は 6 名としております。

これまで重要な事項については積極的に議会に報告があると思っていましたが、実際のところはありませんでした。12 月から能勢電鉄のダイヤ改正により、妙見口、ときわ台、光風台駅から直接川西能勢口に行くことができなくなりました。これだけ重要なことにも関わらず議会には報道発表の後、報告を受けました。町長は直前に報告を受けたということであれば、これが本当であれば能勢電から相手にされていないということになります。能勢電の本線が変わる、これだけ重要なことを直前に報告だけしかないというのは信じがたいことでもあります。これまで能勢電車とどういうふうにし話し合い、どういう交渉をしてきたのか。経緯を確認した上で少しでも利便性がよくなるように能勢電鉄、阪急電鉄に働きかけていく必要があります。また、2 月から西地区で A I オンデマンドバスの実験が始まります。これまでスマートシティ関連の事業についてはかなりイレギュラーな状態で進められてきました。当初は、豊能町の予算ではなく、スマートシティ何とかかんとか協議会がするというので報告があっただけです。その結果、御存じのとおり、スマートバンドを一部の人に配ったり、何と

からいおんについても地域で似たような活動をしている人たちに声をかけないなど、まるで民間企業のような公平性に欠く運用をしていました。今年度は6月に、国の補助金を獲得するという理由で、詳細な事業計画ができ上がっていない状態で多岐にわたる予算を可決しました。多くの議員がこのやり方っていうものはよくないと感じていることだと思います。これまでスマートシティ関連の事業については全員協議会等で議員に意見は聞いていますが、それが何とかかんとか協議会に伝わって事業に活かされているとは到底思えません。交通問題は、高齢化を迎えている豊能町にとっては非常に重要であります。社会実験をするからには成功してもらう必要があります。そのためにこの交通特別委員会を作り、詳細を把握し、今後につながる実験にする必要があります。東地区の地域の交通問題は従来からの課題です。現在あるオンデマンドタクシーの活性化だけでなく、阪急バスの利便性を高めていく必要があります。ぜひともこの設置に御賛同いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（管野英美子君）

これより本件に対する質疑を行います。
質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（管野英美子君）

質疑を終結いたします。
これより討論を行います。

（「なし」の声あり）

○議長（管野英美子君）

討論を終結いたします。
これより採決を行います。
本件は、原案のとおり決することに賛成の方は起立願います。

（多数起立10：1）

○議長（管野英美子君）

起立多数です。

よって、第5号議会議案は、原案のとおり可決されました。

お諮りいたします。

ただいま設置されました交通特別委員会の委員の選任については、委員会条例第7条第4項の規定により、交通特別委員会委員に、

池田忠史議員。

才脇明美議員。

中川敦司議員。

寺脇直子議員。

永並啓議員。

高尾靖子議員。

以上6名を指名いたしたいと思います。

これに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（管野英美子君）

「異議なし」と認めます。

したがって、交通特別委員会委員は、ただいま指名をしました方を選任することに決定いたしました。

なお、委員長には永並啓議員、副委員長には池田忠史議員をお願いしたいと思います。

以上で、本定例会議に付された事件は全て終了いたしました。

お諮りいたします。

12月定例会議は本日で閉会したいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（管野英美子君）

異議なしと認めます。

よって、12月定例会議は本日で閉会することに決定いたしました。

これで本日の会議を閉じます。

本定例会議の閉会に当たり、町長から挨拶がございます。

塩川恒敏町長。

○町長（塩川恒敏君）

閉会に当たりまして御挨拶の前に、まず、このたび私の不徳の致すところ、2週間もの長きにわたりまして入院をすることになってしまいました。大変重要な12月定例会に当たりまして、議員の皆様そして関係者の皆様、そして町民の皆さんに深く御迷惑をおかけをいたしましたこと、深くおわびを申し上げたいと思います。そして昨日と今日、一般質問の日程を御変更いただくなど、重ねて御迷惑をおかけしましたこと、おわびを申し上げます。申し訳ございませんでした。

これまで健康管理につきましては十分留意を図っておりましたけれども、今回、緊急入院となってしまいました。大事な定例会で3月の議会のことを思い出し、発熱というところであわやコロナかというようなことも脳裏にめぐり、そして皆さんへの御迷惑というところに頭がもうめぐってまいりました。今回、私にとって初めて、人生の中で初めての入院でございました。12月2日の夜ですけど、39度8分の高熱、がたがた震えて下痢が止まらないという状態で、翌日にコロナの発熱外来のところにかからせていただきました。今回、本当に御迷惑をおかけをしました。そして議員の皆様初め、そして職員の皆様に多大な御迷惑をおかけをいたしましたこと、深くおわびを申し上げます。申し訳ございませんでした。

さて、本日皆様に御報告をしなければならぬ重大事項がございます。私は任期満了をもちまして町長を退任することにいたしました。これまで豊能町の改革を見届ける、そしてさらに推し進めなければならないということで邁進をしてきました。今回の入院を機になんですけども、新たな病気が実は見つかってしまいました。その検

査、治療に関しまして時間がかかると。私はその大事な公務を穴をあけるということに對しまして、住民の皆さんへの信託にお答えすることができないと判断をいたしました。本当に急ではございますけれども、今日の発表をさせていただきます。私はこれまでも、なし続けようとする中で、途中で投げ出したことはありませんが、その中で公務に耐えることができないということが分かった自分のふがいなさを責め続けております。これまで議員の皆様、住民の皆様、職員の皆様、本当にありがとうございました。これからやり残した内容につきまして、本来はまたお時間をいただき、改めて進めていっていただける方々とともに、私は一町民の立場としてこの豊能町をいつまでも見続け、一町民としてしっかりと支え、豊能町が未来ある子どもさんに向けてしっかりと託せるようなものを作って支えられればいいように思います。具体的に、本当に申し上げたいと思いますけれども、一番、今、悔しさだけが思いでございます。

最後に、町民の皆様、そして議員の皆様、本当にお世話になりました。改めて御挨拶をさせていただきますと思います。

最後に、1年間本当にありがとうございました。新年を迎えるに当たり、御家族と輝ける新年をお迎えをいただき、皆様が健康で御活躍をされることを祈念申し上げます。甚だ簡単でございますけれども、最後の御挨拶をさせていただきますと思います。本当にありがとうございました。

○議長（管野英美子君）

これをもって、令和4年豊能町議会12月定例会議を閉じ、散会といたします。

大変御苦労さまでした。

散会 午後3時23分

本日の会議に付された事件は次のとおりである。

一般質問

第 5 号議会議案 豊能町議会特別委員会設置の件

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会 議 長

署 名 議 員 1 番

同 2 番